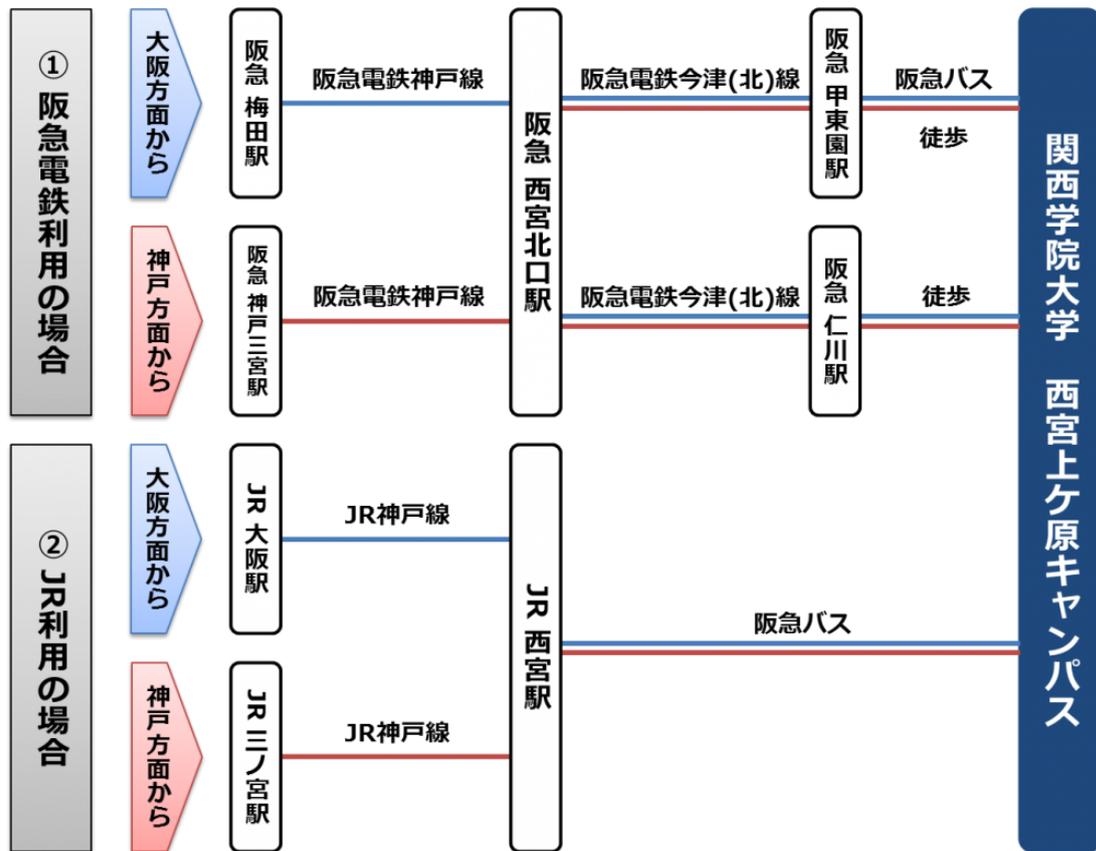


日本社会心理学会
第 57 回大会プログラム

関西学院大学

2016 年 9 月 17 日 (土)・18 日 (日)

大会会場への交通案内①



※いずれの場合も、起点駅から最低30分を目処にお考え下さい

ご注意

阪急電鉄ご利用の場合

- 今津線(宝塚～今津)は西宮北口駅で南北分断されており、直行運転していません。「甲東園」「仁川」にお越しの際は必ず「北線(宝塚行き)」にご乗車下さい。
- 大会期間中は阪神競馬場で中央競馬が開催されているため、特定時間帯に仁川駅始発梅田行きの臨時急行が運行されます。臨時急行は西宮北口には停車しませんのでご注意ください。

JRご利用の場合

- 「西宮」には JR 神戸線「快速」と「普通」のみ停車し、「新快速」は停車しません。「新快速」にご乗車の場合、大阪方面からであれば「尼崎」、神戸方面からであれば「芦屋」で神戸線にお乗換下さい。
- 大阪方面から JR 宝塚線(新三田/宝塚行き)に乗車された場合は「尼崎」でお乗換下さい。「尼崎」では、神戸線と宝塚線が同ホーム発着です。必ず「神戸線(新快速を除く)」にご乗車下さい。

※ 「梅田」(阪急・阪神・大阪市営地下鉄)と「大阪」(JR)、および、「神戸三宮」(阪急・阪神)と「三宮」(神戸市営地下鉄)と「三ノ宮」(JR)は近接しています。

※ 運賃や所要時間等の詳細、空港からのアクセスについては、[大会 Web サイト](#)をご覧ください。

※ キャンパス内に駐車スペースはご用意できません。

大会会場への交通案内②

阪急電鉄ご利用の場合



今津（北）線「甲東園」駅より

阪急バス「JR 西宮/西宮北口」行き
(1, 2 のりば・21, 29 番・「関西学院前」下車) 5 分・220 円

タクシー 3 分・ワンメーター

徒歩 15 分(上り坂)

今津（北）線「仁川」駅より

徒歩 12 分(公共交通機関はございません)

※ 時刻表, および各駅からの徒歩ルートの動画ガイドは大会 [Web サイト「交通・宿泊」](#)でご提供します。

JR ご利用の場合



神戸線「西宮」駅北出口より

阪急バス「甲東園」行き
(1 のりば・11, 19 番・「関西学院前」下車)
20 分・220 円

ご注意: 12, 16 番も「甲東園」行きですが, 経路
地が異なるため大変時間がかかります

タクシー 10 分・1200 円程度

※ 時刻表は大会 [Web サイト「交通・宿泊」](#)でご提供します。

会場案内平面図



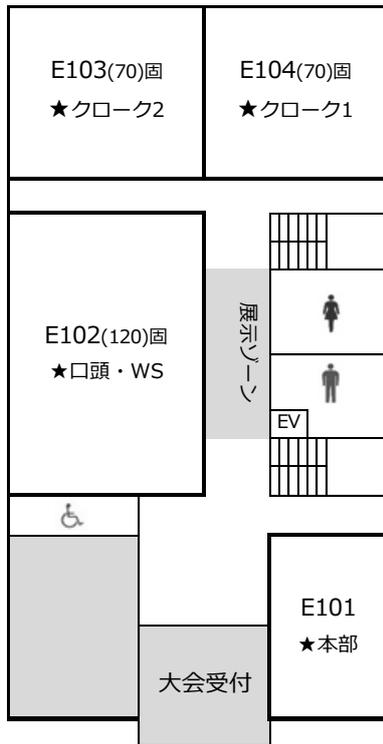
阪急バス「関西学院前」バス停は、正門すぐ前にあります。

正門から会場付近までは、徒歩2～3分です。時計台を正面にして、中央芝生右手を直進して下さい。

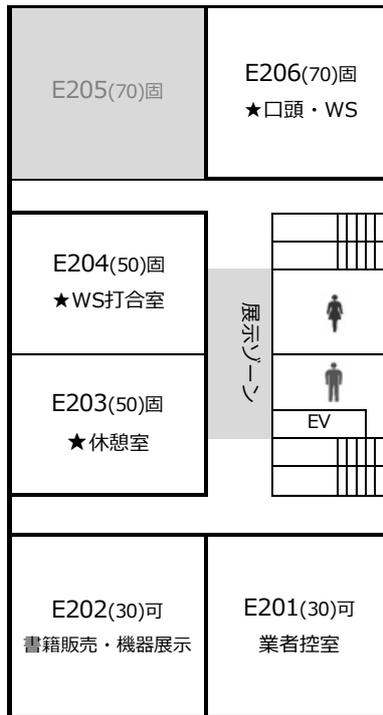
H号館と社会学部の1Fと2Fは相互通行が可能です。【大会Webサイト「交通案内」】

受付・クローク	E号館 1F
口頭発表・WS	E号館 1F 102, 2F 206, H号館 2F 201, 社会学部 2F 202
ポスター発表	H号館 1F ラウンジ, ラーニングコモンズ CReatE1 (2日目のみ)
Invited Lecture	社会学部 1F 101
シンポジウム	SY01 H号館 2F 201, SY02 社会学部 2F 201
総会	社会学部 1F 101
休憩室	E号館 2F 203, H号館 3F 302
書籍等展示	E号館 1F, 2F 廊下, E号館 202

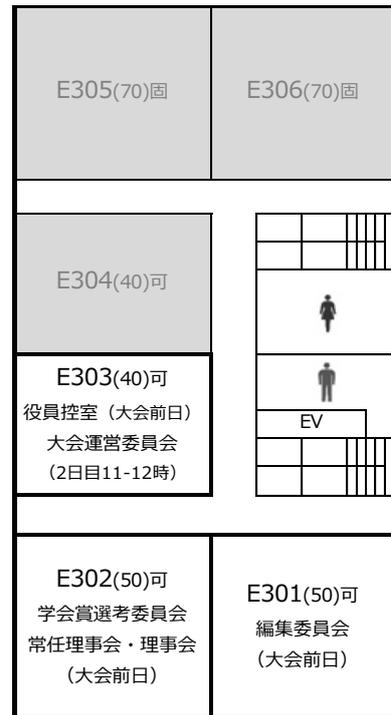
E号館



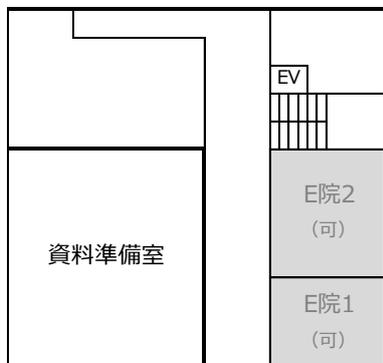
E号館1F



E号館2F



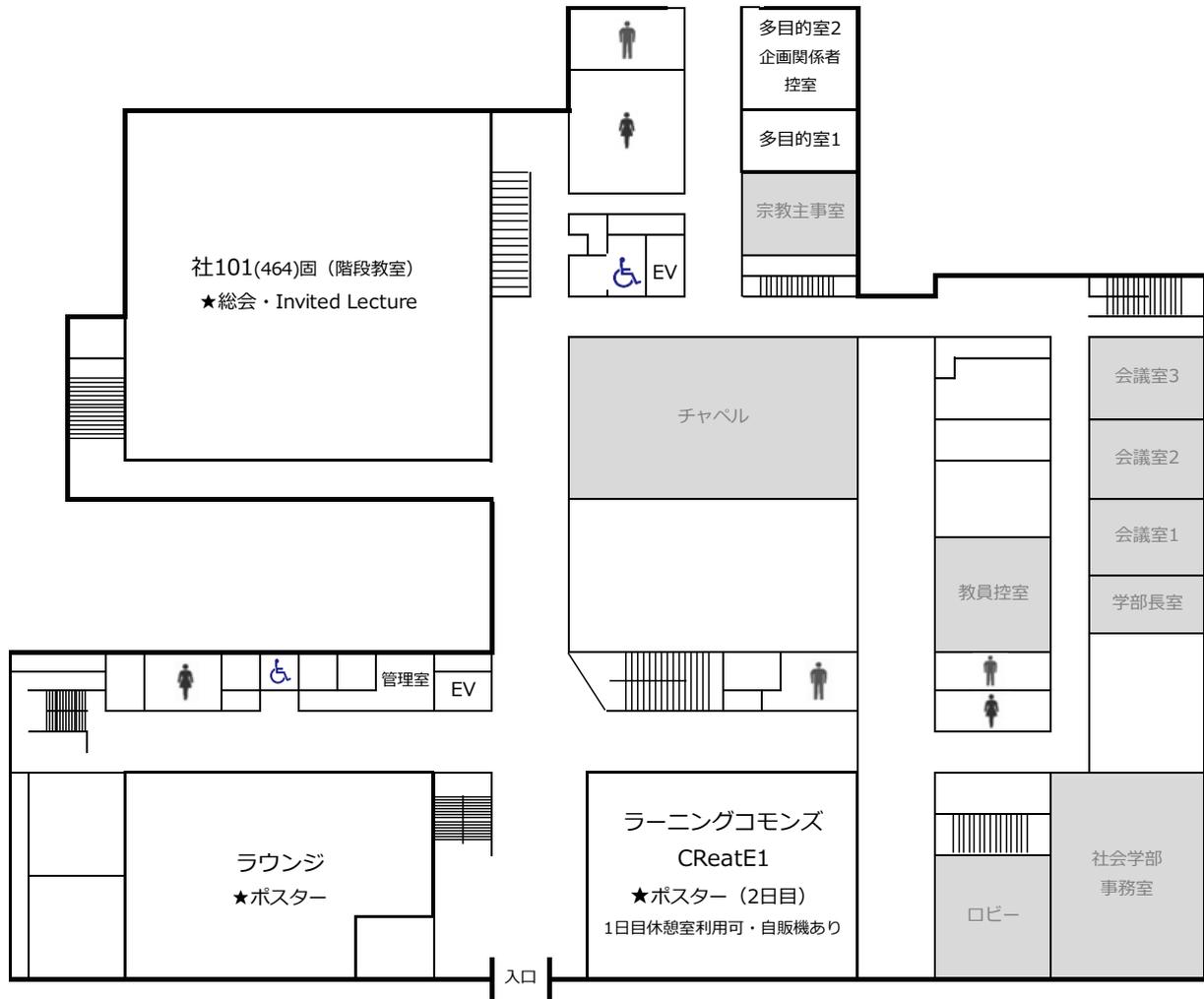
E号館3F



E号館BF

※カッコ内収容定員，固：机椅子固定，可：机椅子可動

H号館・社会学部 1F

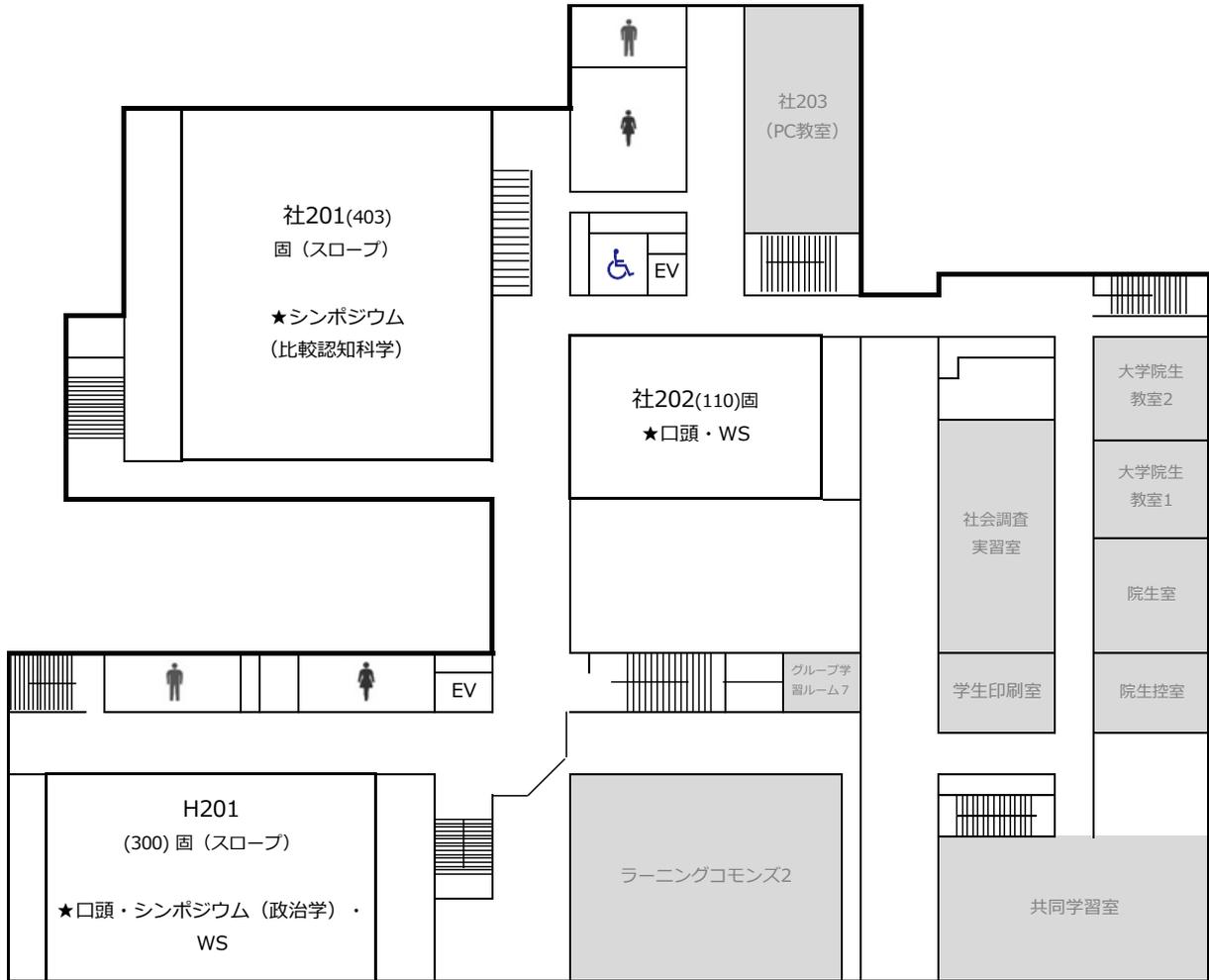


※社会学部棟とH号館相互通行可

※カッコ内収容定員，固：机椅子固定

H号館・社会学部1F

H号館・社会学部 2F

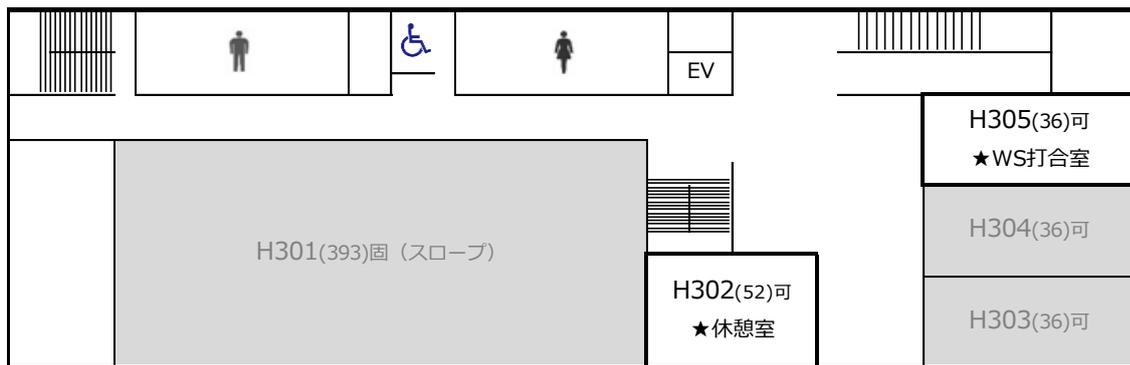
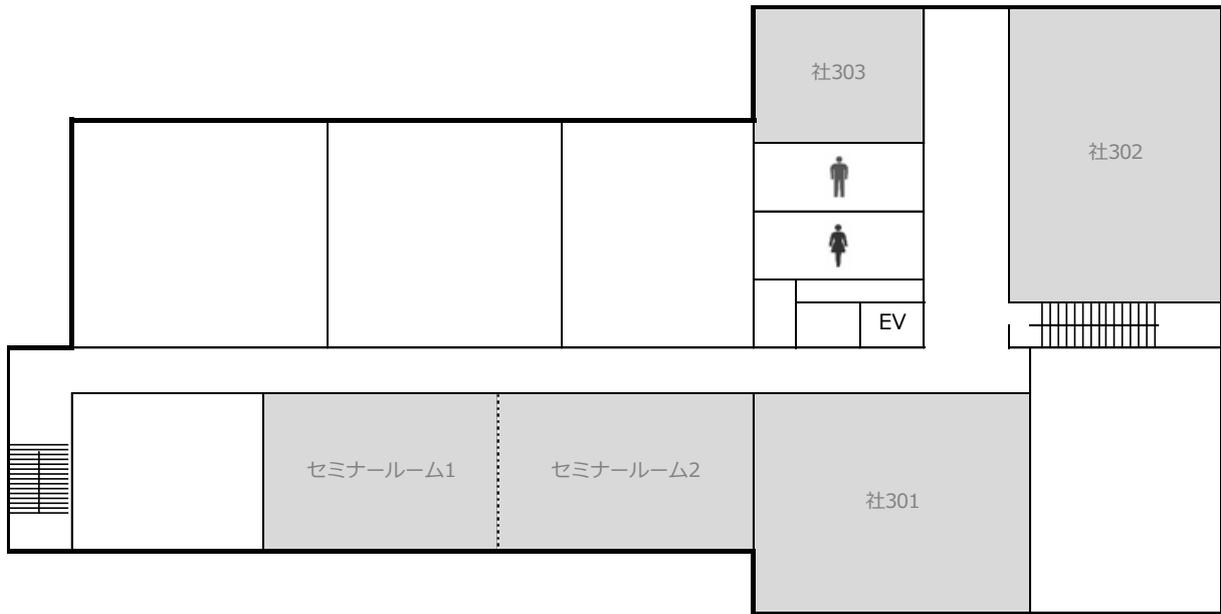


※社会学部棟とH号館相互通行可

H号館・社会学部2F

※カッコ内収容定員, 固: 机椅子固定

H号館・社会学部 3F



※社会学部棟とH号館相互通行不可

H号館・社会学部3F

※カッコ内収容定員，可：机椅子可動

大会に関するご案内

1. 受付

受付は、両日ともに8時15分からE号館1Fロビーにて行います。大会会場内では、名札を必ず着用して下さい。予約参加の方は、受付の必要はありません。プログラムに同封してある名札を必ずお持ちになり、会場で大会用ネームホルダーを受け取ってください(紛失された方は受付でその旨お申し出下さい)。当日参加の方は、受付で参加申込用紙にご記入いただき、参加費をお支払い下さい。大会用ネームホルダーは、受付付近にご用意いたします。

2. 諸費用

①大会参加費(当日)	正会員(一般)	10,000円
	正会員(院生)	6,000円
	非会員(学部学生以外)	1日3,000円, 両日5,000円
	準会員・学部学生(要学生証呈示)	3,000円
	高校生以下(要学生証等呈示)	無料
②論文集購入費(当日)		6,000円
③懇親会参加費(当日)	正会員(一般)	6,500円
	正会員(院生)	5,500円
	非会員	6,500円

※非会員、賛助会員の方は、専用受付にお越し下さい。

※名誉会員の方は、大会参加費・論文集購入費は無料、懇親会はご招待いたします。

※懇親会の当日参加は、受付可能人数に限りがございます。先着順ですのでお早めにお申し込み下さい。

3. 総会・表彰式

1日目の12時15分より、社会学部1F101教室にて開催いたします。

4. 研究発表・自主企画ワークショップ

口頭発表と自主企画ワークショップは、E号館1,2F, H号館2F, 社会学部2Fで行います。

ポスター発表は、H号館1Fラウンジ、ラーニングcommons CReatE1(2日目のみ)で行います。

5. Invited Lecture・大会準備委員会企画シンポジウム/ワークショップ

Invited Lecture (Dr. Daniël Lakens) は、社会学部1F101で行います。

大会準備委員会企画シンポジウムは、2日目12時15分より、SY01(政治学)をH号館2F201, SY02(比較認知科学)を社会学部2F201で行います。どちらのシンポジウムも、事後に講演者承諾の得られた資料や録画の公開

を予定しております。

大会準備委員会企画ワークショップは、1日目の14時15分～(英語で教える社会心理学)および16時～(学際研究)に、いずれもH号館201で行います。

6. 新規事業委員会企画

新規事業委員会による大会前夜祭企画「社会心理学の明日はどっちだ！」が、大会前日(9月16日)の午後に社会学部2F202で開催されます。概要は以下の通りです。

本企画では社会心理学の枠を超えた世界でも通用する研究を行うためにはどうすれば良いのかを、若手に考えてもらうための場を提供する。本企画は第1部から第3部まで、全て事前登録制である。企画詳細は、学会Web及びメールニュースにおける告知をご覧ください。

日程:2016年9月16日(金)13:00~18:00(終了後、関学会館にて懇親会)

場所:関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス 社会学部2F202

講師:出馬圭世(ヨーク大学心理学部)、高橋英之(大阪大学基礎工学研究科)他

第1部:外部講師による講演(13:00~15:00)

第2部:ラウンドテーブルディスカッション(15:00~18:00)

第3部:懇親会(18:30~20:30)

7. 懇親会

1日目の19時より、宝塚ホテル・宝寿の間にて開催します。当日参加も受け付けますが上限数がございますのでご了解下さい。会場までは直通バス(無料)を運行しますのでご利用下さい。17時40分から5分おきに18時00分発までの5台です。出発場所は正門付近を予定していますが、当日変更の可能性もありますので、スタッフが適宜ご案内します。なお、阪急今津(北)線(仁川駅~宝塚南口駅)をご利用になっても30分程度です。

イベントとして「アイデアインキュベーションセッション」を行います。お楽しみに。

8. クローク

クロークは、E号館1Fに設置します。お預かり時間は、両日ともに8時15分から17時45分までです。お荷物は、必ず当日中にお引き取り下さい。貴重品やパソコンはお預かりできません。

9. 休憩室・打ち合わせ室・無線LAN利用

大会期間中は、E号館203とH号館302に休憩室を設けます。飲み物と小菓子をご提供します。開室は1日目が9時00分から17時30分まで、2日目が8時45分から16時30分までです。また、ワークショップ・シンポジウムの打ち合わせ室としてE号館204とH号館305を用意しております(湯茶等は休憩室のものをご利用下さい)。

無線LAN接続には [eduroam JP](#) がご利用いただけます。ご所属研究機関のサービス加入とご自身による設定が必要です。テザリングはご利用いただけますが、WiMAXは会場内では接続不能です。

10. 昼食・売店等

1日目は、総会会場にて弁当と飲み物をご提供します。2日目は、E号館およびH号館の入口付近にて軽食をご提供します。

付近の飲食店やコンビニエンスストア、キャンパス内の自販機位置等の案内マップを会場で配布予定です。

11. 喫煙場所および禁酒のお願い

関西学院大学構内は、屋外数カ所に設置された喫煙スペース以外は全面禁煙となっています。指定場所以外での喫煙はご遠慮下さい。また、飲酒厳禁です。

12. 託児サービス

大会期間中、月齢2ヶ月以上12歳(小学校6年生)までのお子様を対象とした託児所を設置します。時間はプログラム開始30分前から終了15分後まで(1日目:8時30分～17時45分、2日目:8時15分～17時30分)で、場所は申込者に別途お知らせいたします。申込方法等は大会 Web サイトあるいはメールニュース[JSSP_NEWS:1376](2016年2月18日配信)をご参照下さい。

13. 大会参加支援スケジュール

PC/スマートフォンからアクセスできるスケジュールWebサイトを提供します。プログラム閲覧、カレンダーとの連動などの機能を搭載する予定です。URL等の詳細は大会 Web サイトをご参照下さい。

14. 書籍販売と機器展示

書籍の販売と機器の展示は、E号館1F、2F廊下およびE号館202で行います。

15. 掲示板およびコミュニケーション・ボード

掲示板とコミュニケーション・ボードを、E号館入口とH号館1F入口付近に設置します。大会本部からの連絡事項を掲示します。コミュニケーション・ボードには、研究に関する事柄であれば自由に掲示できます。

大会本部からの連絡事項は、Twitter @jssp2016 でも随時お知らせします。

16. ソーシャルメディア利用に際するご協力のお願い

ソーシャルメディア(Twitter や Facebook など)において、第三者が、研究発表の内容を録音・録画・撮影したり、中継・実況・報告等をオンラインで公開する場合は、たとえ用途が個人用であったとしても、事前に発表者の許可を得て下さい。また、発表者も、特にそれを抑制したい場合には、ご自身の態度の明示にご協力下さい。参加者相互が気分を害することがないように、じゅうぶんご配慮下さい。

17. スタッフ・大会本部・緊急連絡先

スタッフは背中に大会ロゴマークのデザインされたロイヤルブルーの T シャツを着用しております。ご利用の際はお気軽にお声がけ下さい。大会本部は、E 号館 1F 101 に設けます。会場外からの緊急のご連絡は、jssp2016@ml.kwansei.ac.jp までお願いいたします。

大会準備委員会からの情報発信は [Twitter @jssp2016](https://twitter.com/jssp2016) で行っています。

18. 常任理事会・理事会・編集委員会

大会前日の 9 月 16 日（金）に E 号館 3F で開催されます。詳しくは各連絡用メーリングリストでご案内します。

学会賞選考委員会	10:30-11:30	E 号館 302
編集委員会	12:00-14:00	E 号館 301
常任理事会	14:00-16:00	E 号館 302
理事会	16:00-18:00	E 号館 302

発表者へのご案内

1 口頭発表

受付と発表準備

発表者はセッション開始10分前までにご来場下さい。座長は全発表者の来場を確認して下さい。プレゼンテーションに備え付け PC をご利用の場合はデータをデスクトップ上にコピーして下さい(セッション終了後すぐに準備委員会の責任において削除します)。ご自身の機器をご利用の場合は、必ずセッション開始前に接続確認をして下さい。

発表成立の要件

(a)発表論文集への論文掲載、(b)当日の発表と討論への参加の両件を満たすことで、公式発表として認められます。当日の発表と討論は、責任発表者(プログラム中の○印)が行って下さい。

機器

各会場にはプロジェクタとスクリーンが設置されています。ノート PC(OS: Windows7/10, Microsoft Office PowerPoint2013)を用意します。データはUSBメモリでご持参下さい。Mac や iPad 等の場合はお手持ちのものをお使い下さい(プロジェクタとの接続アダプタはご用意できません)。レーザーポインタもご準備します。

時間

1 件あたりの持ち時間は 15 分で、発表時間 12 分、質疑応答 3 分です。時間厳守へのご協力をお願いいたします。発表中は、以下の通り合図をいたします。

1 鈴 10 分経過, 2 鈴 12 分経過(発表終了), 3 鈴 15 分経過(質疑応答終了)

配布資料

各自で必要と思われる部数をご準備の上、発表会場にご持参下さい。セッション開始前に会場係にお渡しいただければ配布をお手伝いし、セッション開始後は会場出入口付近に置かせていただきます。

会場レイアウト

会場により、規模や座席配置等が異なります。会場案内平面図に収容定員など参考情報を記載しておりますのでご確認下さい。

2 ポスター発表

受付

発表者は、セッション開始 5 分前までにポスター会場前の発表受付にお越し下さい。発表者用のネームプレートをお渡しします。受付は、両日共にセッション開始 30 分前から開始いたします。なお初日は、設営の都合上、受付開始時刻まで会場にお入りいただくことができません。

発表成立の要件

(a)発表論文集への論文掲載、(b)発表が割り当てられたセッションでの 90 分間のポスター掲示、(c)指定された 45 分(奇数番号:前半, 偶数番号:後半)の在席、および(d)質問者との個別討論への参加の 4 件を満たすことで、公式発表として認められます。当日の発表と討論は、責任発表者(プログラム中の○印)が行って下さい。

掲示【参考写真】

ポスターは「A0 サイズ縦長」以内として下さい。パネル上部に発表番号を掲示してありますので、所定の位置をご利用下さい。画鋲はポスター会場にご用意します。ポスターの最上段には「題目」、「氏名」、「所属」を明記して下さい。ポスターは、初日は 13 時 45 分から、2 日目の午前セッションは 8 時 15 分から、午後セッションは 11 時 30 分から掲示できます(受付開始時間は「受付」をご参照ください)。セッション終了後は速やかに撤収してください。撤収されなかったポスターは会期終了後に大会準備委員会が廃棄します。

在席責任時間

1 つのセッションは 90 分です。在席責任時間は、発表番号(P で始まる 3 桁の数字)が奇数の方は前半の 45 分、偶数の方は後半の 45 分です。

3 連名発表者による代行と発表取消

責任発表者がやむを得ない事情により欠席する場合、準備委員会の事前の承認を得た上で、連名発表者が発表を代行することができます。承認を得ていない場合、公式発表として認められないことがあります。また、口頭発表において発表の取消があった場合、その後の発表スケジュールの繰り上げは行いません。座長の指示に従い、討論や休憩などの時間にあてて下さい。代行や取り消しについては、早めに準備委員会までご連絡下さい。

4 ワークショップ

時間

1 企画全体で 90 分とします。企画者や司会者のもとで自由に進行していただきます。終了時間は厳守してください。

機器

各会場にはプロジェクタとスクリーンが設置されています。ノート PC(OS: Windows7/10, Microsoft Office PowerPoint2013)を用意しますので、データは USB メモリでご持参下さい。Mac や iPad の場合はお手持ちのものをお使い下さい(プロジェクタとの接続アダプタは用意できません)。レーザーポインタもご準備します。備え付け PC をご利用の場合はデータをデスクトップ上にコピーしていただいてもかまいません。セッション終了後すぐに準備委員会の責任において削除します。

配布資料

各自で必要部数をご準備の上、発表会場にご持参下さい。ワークショップ開始前に会場係にお渡しただければ配布をお手伝いし、ワークショップ開始後は会場出入口付近に置かせていただきます。

会場レイアウト

会場により異なります。会場案内平面図に収容定員や特徴を記載しております。

打ち合わせスペース

ワークショップの打ち合わせにご利用いただける部屋を 2 室(E 号館 2F 204 と H 号館 3F 305)ご用意しました。ご自由にお使い下さい。ただし湯茶等の準備はなく、複数のワークショップの共用となる場合もありますのでご了承下さい。

5 ご連絡・お問い合わせ

大会準備委員会へのご連絡は、E-mail(jssp2016@ml.kwansei.ac.jp)でお願いいたします。大会開催中は大会本部(E 号館 1F 101)に直接お越しいただいても結構です。交通機関の遅延や事故等による不測の事態により、ご自身の研究発表セッションの開始予定時間に間に合わない可能性が生じた場合は、なるべく早くご連絡下さい。

託児のご案内

大会期間中、月齢2ヶ月以上12歳(小学校6年生)までのお子様を対象とした託児室を設置します。託児所の利用を検討されている方は、以下をご覧になり、必要な情報を大会準備委員会まで電子メールでお知らせ下さい。当日の要領など詳細については個別にご連絡させていただきます。ご質問なども遠慮なくお知らせ下さい。

準備の都合上、お申し込みは9月1日(木)までをお願いいたします。この日までにご予定がはっきりしない場合はお早めにご相談下さい。

1. 託児料

1日につき1,000円

2. 託児時間

両日ともに、プログラム開始30分前から終了15分後まで

1日目:8時30分～17時45分 2日目:8時15分～17時30分

3. 託児場所

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス内(お申し込みをいただいた方に別途お知らせします)

4. 託児委託先

[株式会社明日香](#)

5. ご連絡いただきたい内容とご連絡先

内容:託児を希望されるお子様の(1)大会時の年齢(3歳未満の場合は月齢まで)と(2)性別

連絡先:大会準備委員会 jssp2016@ml.kwansei.ac.jp

6. 申込〆切

9月1日(木)

この日までにご予定がはっきりしない場合は、その旨を早めにご相談下さい。

備考

本サービス実施には日本社会心理学会の大会時託児室設置費補助金(20万円)を活用しています。

託児料は、大会における託児室設置(暫定)ガイドライン(2004年7月18日総会決定)に基づくものです。

第1日目 9月17日(土)

受付開始：8時15分（E号館 1F ロビー）

会場	8:15	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	17:30
E号館 102		9:00 口頭101 パーソナリティ	10:15	10:30 口頭104 身近な人間関係	12:00			14:15 自主企画WS201 老年学	15:45		
E号館 206				10:30 口頭105 政治行動・世論	12:00						
社会学部 202		9:00 口頭102 組織	10:15	10:30 口頭106 社会問題・リスク	12:00						
H号館 201		9:00 口頭103 対人的相互作用	10:15	10:30 口頭107 文化	12:00			14:15 準備委員会WS101 英語で教える社会心理学	15:45	16:00 準備委員会WS102 学際研究	17:30
社会学部 101						12:15 総会	13:55			16:00 Invited Lecture Dr. Daniël Lakens	17:30
H号館 ラウンジ								14:15 ポスター11	15:45		
E号館203 H号館302		9:00	休憩室							17:30	
E号館204 H号館305		9:00	ワークショップ打ち合わせ室						16:00		
E号館 1,2F廊下 202		9:00	書籍販売・機器展示							17:30	

第2日目 9月18日(日)

受付開始：8時15分（E号館1Fロビー）

会場	8:15	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	17:30
E号館 102		8:45 10:15 口頭201 メディア・消費	10:30 12:00 口頭204 態度				14:00 15:30 口頭208 環境・災害	15:45 17:15 自主企画WS202 親密な関係の関			
E号館 206			10:30 12:00 口頭205 価値意識・社会化				14:00 15:30 口頭209 感情・動機	15:45 17:15 自主企画WS203 欺瞞的コミュニケーション			
社会学部 202		8:45 10:15 口頭202 社会的認知	10:30 12:00 口頭206 集団2				14:00 15:30 口頭210 集団3	15:45 17:15 自主企画WS204 産学連携			
H号館 201		8:45 10:15 口頭203 集団1	10:30 12:00 口頭207 社会的交換		12:15 13:45 シンポジウム01 政治学		14:00 15:30 口頭211 対人的コミュニケーション	15:45 17:15 自主企画WS205 災害リスク			
社会学部 201					12:15 13:45 シンポジウム02 比較認知科学						
H号館 ラウンジ		9:30 11:00 ポスター21					14:45 16:15 ポスター23				
H号館 ラーニング コモンズ1		9:30 11:00 ポスター22					14:45 16:15 ポスター24				
E号館203 H号館302	8:45	休憩室								16:30	
E号館204 H号館305	8:45	ワークショップ打ち合わせ室						15:45			
E号館 1,2F廊下 202	8:45	書籍販売・機器展示									17:15

Dr. Daniël Lakens

Eindhoven University of Technology

Dr. Lakens is an assistant professor in applied cognitive psychology of the department of human-technology interaction of Eindhoven University of Technology. He received his PhD in social psychology at Utrecht University in 2010. In addition to his main line of research in social psychology, he has been one of the leading figures in the recent methodological revolution of psychology, encouraging the new trend of Open Science not only by his academic papers but also through discussions on social media including his blog articles. He is also known as a good educator, having being elected as the best teacher of bachelor course at Eindhoven University of Technology in 2014.



Title of the lecture:

Towards a reliable and cumulative psychological science

Recent events have led psychologists to acknowledge that the inherent uncertainty encapsulated in an inductive science is amplified by problematic research practices. In this presentation, I will discuss the challenges our scientific discipline faces to improve the way we work, and provide practical recommendations to facilitate cumulative science based on recent developments in statistics, methods, and open science.

Moderator :

Kai Hiraishi (Keio University)

Koki Ikeda (JSPS, Chukyo University)

*This invitation was supported by [JSPS KAKENHI Grant Number JP15K13122](#).

政治態度や規範の探求をめぐる社会心理学と政治学の対論

共催：日本選挙学会

企画者： 稲増 一憲（関西学院大学）

話題提供者： 河野 勝（早稲田大学・非会員）

亀田 達也（東京大学）

概要

社会心理学と政治学は社会調査や実験などの方法論を共有しており、意思決定や規範など、研究関心が重複する部分も大きい。近年では、社会心理学において注目を集めている Jonathan Haidt らの道徳研究がイデオロギーという政治学における中心的な概念のひとつを扱っている。このように方法論や研究対象を共有する社会心理学と政治学であるが、両者の大きな違いとして、ユニヴァーサルリズムを志向する社会心理学と時代的な文脈を無視することはできない政治学という対照関係が存在する。今回のシンポジウムにおいては、両者の対照関係を浮き彫りにするとともに、それを乗り越えた学際研究の可能性について考えてみたい。

河野 勝氏

今日、世界に現存する政治制度や政治体制は、近代以降の（その意味ではきわめて特殊で時代限定的な）文脈の中で産み落とされ、成熟してきた。たとえば、（一定の要件をもつ）すべての人々が主権者として等しく一票を投じる権利をもつ民主主義なるものがこの地球上に定着したのは、たかだか、ここ 100 年たらずのことではしかない。それゆえ、政治学における真理の探求は、そうした文脈的制約を自覚した上でなされなければならない。この留保は、普遍的な真実や行動原理を追求しようとする経済学や心理学とは異なる理論的関心ないし方法論的性向を生じさせる。発表においては、この違いをいくつかの具体的な研究例を紹介して、明示化していきたい。

亀田 達也氏

ギリシャや中国以来の政治哲学は、望ましい社会のあり方（「べき」）をめぐるさまざまな論考を積み重ねてきた。進化ゲームを用いた理論解析や社会心理学の実証研究によれば、政治イデオロギーや社会理想のタイプは無限に存在するのではなく、いくつかの有限なパターンに弁別可能だという。それでは「である」に関する実証的なデータは、「べき」に関する規範的議論に何を提供できるのか。「自然主義的誤謬」に陥ることなく、この問題を考える予備的な作業を試みたい。

比較することの意味と意義 -社会心理学と比較認知科学の新たな接点を求めて-

Why we compare: Exploring new frontiers for social psychology and comparative cognitive science

共催：日本動物心理学会

企画者： 石井 敬子 (神戸大学)・友永 雅己 (京都大学・非会員)

話題提供者： 菊水 健史 (麻布大学・非会員)

友永 雅己 (京都大学・非会員)

大平 英樹 (名古屋大学)

増田 貴彦 (University of Alberta)

概要

本シンポジウムの狙いは、「比較」に着目し、比較認知科学および(社会)心理学におけるその意味や意義を明らかにしながら、どのような新たな接点が可能なのか、さらにその接点の先にはヒト(人)の本質にかかわるどういった解決すべき課題があるのかについて議論することにある。各話題提供の概要は以下の通りである。

菊水 健史氏 「ヒトとイヌの共生から見えてきたこと」

ヒトとイヌは4万年にもおよぶニッチの共有を経て、特異な関係性を構築してきた。その過程で獲得したイヌの認知的特性は、ヒトがどのような動物をパートナーとして選んだかに因るが、その選択のあり方からヒトのあり方も伺える。今回、イヌの社会性と親和性の解析、そこから見えるヒト社会についても考察したい。

友永 雅己氏 「参照点としての大型類人猿、特異点としての大型類人猿」

比較認知科学は、社会的知性などヒトのこころの進化的なユニークさと連続性を明らかにすべく、現生の最近縁種である大型類人猿を最重要の研究対象として位置づけてきた。しかしそのことが逆にヒト科に属する大型類人猿たちの多様性を過小評価することになってはいないだろうか。人間のこころを理解するための参照点であり、かつこころの多様性の特異点でもある大型類人猿のこころの概要について改めて考えてみたい。

大平 英樹氏 「共通原理を求めて：社会性の神経基盤を問う意味」

比較とは共通の尺度による測定である。比較するからには共通原理が想定されるはずであり、それなくては、そもそも比較する意味はない。このことを、ヒトの社会性の神経基盤を例として考えたい。具体的には、社会性を、動物とも共通する報酬システムと強化学習システムの外挿から構想可能かを検討する。

増田 貴彦氏：「“比較”文化心理学—文化類似性と文化特殊性のバランス理論」

近年、文化心理学では、様々なこころの要素の文化特殊性のみならず、それぞれの文化にみられる類似性にも焦点をあてたバランスのとれた研究報告が必要とされている。本トークでは、知覚・認知研究などで行われている最近の研究を紹介し、より精緻な文化比較研究を進めるために今後求められる研究のありかたについて論じる。

社会心理学を、英語で教えてみませんか？

企画者： 大坪 庸介・アダム スミス (神戸大学)

話題提供者： 中島 健一郎 (広島大学)
一言 英文 (京都大学)
アダム スミス (神戸大学)
大坪 庸介 (神戸大学)

概要

現在、大学教育の英語化が求められている。社会心理学会の会員の中にも、社会心理学を英語で講義する予定がある方・そのような要請がある方もいらっしゃるのではないだろうか。このワークショップでは、英語による社会心理学の授業の例(日本人学生だけを対象にした講義、留学生を含む英語力に差のある学生を対象とした講義)をとりあげ、英語で社会心理学の講義を行うことのメリット、デメリットを考えてみたい。また、実際に英語による講義を支援するために、(1)英語と日本語を併記した教科書、(2)典型的な実験結果の英語による説明の例、(3)ノンネイティブによる英語での授業を補完するためのインターネット上の動画資料の紹介を行う。授業支援につながる資源の紹介を通じて、日本における社会心理学教育の英語化に貢献したいと考えている。

作成された教科書を利用した教育実践の協力者を募集しています。詳しくは下記 URL をご覧いただき、企画者にコンタクトをお取り下さい。

http://www.socialpsychology.jp/conf2016/program/ws01socspy_english/

次世代学際研究への社会心理学の挑戦

共催：日本パーソナリティ心理学会

企画者： 平井 啓 (大阪大学)

話題提供者： [Antonio Terracciano](#) (Florida State University, non-member)

[榎藤 恭之](#) (大阪大学・非会員)

[福田 早苗](#) (関西福祉科学大学・非会員)

指定討論者： 唐沢 かおり (東京大学)

通訳： 福沢 愛 (神戸大学)

概要

日本学術会議 心理学・教育学委員会(2010)から、「心理学は、「内観としてのこころ」に正面から向き合う唯一の実証科学として、脳研究、ロボティクス、ゲノム研究など、こころに対する多様な科学と連携し、こころの科学の「扇の要」としての役割を果たしていくべきである」、「臨床(応用)と学問(基礎)の連携を強め、日々の暮らしに根ざした問いから研究を発掘し、心理学研究の成果を人々の暮らしに役立てていくべきである」という提言が出されている。このような他分野との連携や基礎と実践の連携への要請は、社会心理学においても求められているが、個々の研究者レベルにおいて十分な取組ができているとは言いがたい。

そこで本ワークショップでは、学際研究において、(1)心理学の **Discipline** がどのように貢献したか？あるいはどのような点で限界を感じたか？(2)他分野の知見・方法論を用いることがどのように心理学の **Discipline** を発展させたか？あるいはそれに困難を感じたか？(3)学際研究を行なう際の研究者として他分野の研究者と付き合っているか？について、社会心理学の分野およびその関連領域において「学際的研究」を行っている第一線の研究者がそれぞれの経験を紹介する。それをシーズとし、ワークショップでの議論を通じて体系的、明示的にまとめていくことで、日本の社会心理学における学際研究の進展と日本学術界における社会心理学のプレゼンス向上への貢献を図りたい。

超高齢社会における社会心理学の役割（２） ～高齢者を対象とする調査研究からの貢献～

企画者： 中原 純（聖学院大学）・水上 喜美子（仁愛大学）
司会者： 水上 喜美子（仁愛大学）
話題提供者： 菅原 育子（東京大学）
村山 陽（東京都健康長寿医療センター研究所）
中原 純（聖学院大学）
指定討論者： 小林 江里香（東京都健康長寿医療センター研究所）
岩淵 千明（川崎医療福祉大学）

概要

2025年には、4人に1人が75歳以上という超高齢社会の到来が予想され、高齢者数の多さ、高齢化率の高さが様々な問題を引き起こすと考えられている。そこで、昨年度の日本社会心理学会第56回大会(東京女子大学)では、「超高齢社会における社会心理学の役割(1)」を企画し、3名の話題提供者による報告(高齢者を対象とする実験法・写真投映法・面接法、調査法といった多様な手法からのアプローチ)を基に、超高齢社会において社会心理学が担うことのできる役割について議論した。今年度のWSにおいても、この目的は踏襲するが、少し焦点を絞ることとする。

昨年度は老年学の紹介という企画者の意図もあり、多様な手法での高齢者へのアプローチを紹介した。しかし、実際には、高齢者を対象とする社会心理学の研究は、調査法によって行われたものがほとんどである。これは、高齢者に対して身体的な負荷を課す長時間の実験協力や複雑な作業を依頼することが難しく、また研究倫理に関する問題も指摘されるため、ある程度やむを得ないことではある。一方で、調査法によってのみ明らかとなった知見が、実際の超高齢社会の中でどのように活かされるのか、社会心理学の知見としてどの程度重要であるのか、といった社会的・学問的貢献が見えにくいものでもある。そこで、今年度のWSでは、高齢者を対象とする調査によって得られた社会心理学の知見の社会的・学問的貢献について議論を行う。

議論に先立ち、社会心理学をバックグラウンドとしながら、高齢者を対象とする調査研究を行ってきた菅原、村山、中原から話題を提供する。まず、菅原は地域住民のランダムサンプルを対象とした社会調査手法によって得られたデータからの知見として、高齢者の主観的 well-being について報告する。次に、村山はシニアによる絵本の読み聞かせボランティア「りぷりん」と活動におけるデータから、世代間交流研究・実践における知見を報告する。最後に中原が高齢者を対象とする複数の調査から得られた知見として、高齢者の自己概念に関する報告を行い、同じく社会心理学を専門としながら高齢者の研究にも精通される小林氏、岩淵氏にコメントをいただく。その後、フロアとの討論を通して、昨年度の(1)同様、社会心理学における高齢者研究のこれからについて考えていきたいと思う。

親密な関係の闇を捉える～DV、DaV、そしてストーキング～

企画・司会者： 荒井 崇史 (追手門学院大学)・金政 祐司 (追手門学院大学)

話題提供者： 相馬 敏彦 (広島大学)

荒井 崇史 (追手門学院大学)

島田 貴仁 (科学警察研究所)

指定討論者： 山本 功 (淑徳大学・非会員)

金政 祐司 (追手門学院大学)

概要

警察庁(2015)によれば、平成26年の配偶者からの暴力(Domestic Violence : DV)の相談等件数は53,915件(生活の本拠を共にする交際をする関係を含めると63,141件)、ストーカー事案等の相談件数は22,823件にのぼる。また、内閣府(2016)によると、女性の約5人に1人が交際相手から暴力(Dating Violence : DaV)の被害を受けた経験があるとされる。親密な関係内での暴力や凄惨な事件は日常的にメディアを賑わしており、それは社会的問題になっていると言っても過言ではないであろう。こうした社会情勢を背景に、近年では、親密な関係における暴力加害者への治療的介入や予防的介入に注目がなされ始めている。しかしながら、我が国では、親密な関係における暴力に関連した実証的な心理学的研究は必ずしも多くはない。どのような介入を議論するにしても、限りある人的・資金的資源を効果的に活用するためには、実証的なエビデンスを蓄積することが必要であろう。

本ワークショップでは、相馬氏からDVを生起、エスカレートさせやすくする潜在因子について概説いただくと共に、それを踏まえて行われている1次予防プログラムについて話題提供をいただく。また、荒井からは、DaVに関する場面想定法を用いた研究から加害に関連する要因について話題提供を行う。さらに、島田氏からは、業務統計や相談記録の分析結果から日本におけるストーカー事案の実態や問題点について話題提供をしていただく。これらの実証的研究を踏まえて、山本氏には、犯罪社会学の立場から現在の研究において不足している点と今後の研究の方向性について討論いただき、金政は、社会心理学的立場からそれらについてのコメントを行う。最終的に、DV、DaV、ストーカー行為について、現在、何が明らかになり、何が明らかになっていないのか、今後どのような研究が必要とされるのかについてフロアーの先生方を含めて議論を行いたい。

「隠す」心理を科学する—欺瞞的コミュニケーション研究の最前線—

企画者： 太幡 直也（愛知学院大学）・佐藤 拓（いわき明星大学）

司会者： 太幡 直也（愛知学院大学）

話題提供者： 朴 喜静（Daegu Metropolitan Police Agency）

藤原 健（大阪経済大学）

丹野 宏昭（東京福祉大学）

指定討論者： 村井 潤一郎（文京学院大学）

概要

われわれの社会生活では、隠し事をする、嘘をつくなど、「隠す」という行為は不可欠のものである。したがって、「隠す」心理を探求することを通し、人間の特徴をより深く理解できると考えられる。本ワークショップでは、隠し事や嘘が用いられるコミュニケーション、すなわち欺瞞的コミュニケーションの最新の研究に関する話題提供や議論を通し、「隠す」という観点から人間の特徴の理解を深めることを試みる。

本ワークショップでは、3名の話題提供者が登場する。最初に話題提供する朴は、嘘をつく行為者の感情に焦点を当て、行為者の感情統制能力が非言語行動に及ぼす影響について紹介し、正確な嘘の解釈および捜査場面での活用性について報告する。続いて話題提供する藤原は、隠匿情報検査を用いた欺瞞検知に着目し、欺瞞検知と、否定の手振りや社会的スキルなどとの関連について報告する。最後に話題提供する丹野は、近年ブームとなっている人狼ゲームを扱った心理学や関連領域の研究について紹介する。人狼ゲームは、参加者同士で嘘をついたり、嘘をついている人間を探したりする、欺瞞的コミュニケーションをベースとしたコミュニケーションゲームである。

最後に、総合的な討論において、欺瞞的コミュニケーションに関する研究の今後の可能性について議論する。

社会心理学における「産学連携活動の意義」を問い直す

企画者： 池内 裕美 (関西大学)・秋山学 (神戸学院大学)・前田洋光 (京都橘大学)

司会者： 前田 洋光 (京都橘大学)

話題提供者： 永野 光朗 (京都橘大学)

池内 裕美 (関西大学)

松井 由樹 (関西大学・非会員)

田坂 英恵 (関西大学)

指定討論者： 秋山 学 (神戸学院大学)

概要

近年、大学の果たすべき役割として「研究成果の社会還元」が挙げられるようになり、民間企業と共同で研究や事業を行う「産学連携」が急速な広がりを見せ始めた。これには2003年に文部科学省が「特色ある大学教育支援プログラム」(GP: Good Practice)で「産学連携教育」を募集テーマに掲げたことや、2004年に国公立大学が法人化したことが一つの契機になっているといえる。その後も産学連携に対する期待は益々高まり、2014年に経団連が発表した「次代を担う人材育成に向けて求められる教育改革」においても「産学連携の推進」が挙げられている。

確かに大学の知(シーズ)と企業の技術の融合は、社会を大きく変える可能性を秘めている。また企業側には最先端の知識を低コストで活用できるというメリットや、大学側にも学生への技術の伝授や研究資金が確保できるというメリットがあるだろう。しかし、これはあくまで理工系学部を中心とする話である。

それでは、文系学部の心理学分野における産学連携は、いかなる形で社会に貢献し、どのように大学教育の中で位置づけられるべきであろうか。今後、公認心理師が動き出す中、社会の様々なフィールドで、心理学の知の応用に寄せられる期待は高まることが予想される。既に日本認知心理学会では、認知心理学と企業における製品開発に関するシンポジウムが開催され、社会貢献の可能性について検討され始めている。

本ワークショップでは、産学連携の意義を今一度確認するとともに、社会心理学のなすべき社会還元について議論したい。話題提供者として、まず永野光朗先生に、授業の一環として取り組まれた商業施設の活性化を目的とする連携活動についてご紹介頂く。次に、ゼミ活動の一環として池内自身が取り組んできた商品開発の事例を取り上げる。そして、それを支えて下さった関西大学社会連携部の松井由樹様、実際に学生として活動に携わった大学院生の田坂英恵さんにもご登壇頂き、それぞれの視点から産学連携の可能性や問題点について話題提供して頂く予定である。

災害リスク研究の次を考える： 東日本大震災、福島第一原発事故を踏まえて

企画者： 平石 界（慶應義塾大学）
話題提供者： 中谷内 一也（同志社大学）
平石 界（慶應義塾大学）
指定討論者： 佐倉 統（東京大学・非会員）
飛田 操（福島大学）

概要

本企画は、東日本大震災と、それに続く福島第一原発事故を対象に進められてきた研究成果を受けて、災害リスクにかかわる社会と心理にかんして、今後の研究の方向性を議論することを企図するものである。

東日本大震災と、それに続く福島第一原発事故によって、日本社会は様々な影響を受け、短期的または長期的な変化を経験してきた。その中には、以前の姿への復帰が期待されるものもあれば(i.e., 福島県産の農産物への風評被害など)、何が“望ましい”状態なのか、必ずしも明確でないもの(i.e., 原子力発電所やその専門家への信頼など)もある。

他方で、日本列島では今後も大地震の発生が十分に予見される。そもそも人間が地球環境を完全なコントロール下に置いていない以上、地震に関わらず、さまざまな災害が今後も生じるのは確実である。このことを事実として受け入れるのならば、我々が今のうちに何を研究しておくべきかという問題意識が立ち上がる。その方向性を考えるために、東日本大震災と福島第一原発事故にかかわる研究から、どのような示唆が得られるだろうか。震災から5年が経ち、そして九州で新たな震災を経験した今、落ち着いて次の一手を考える場を設けたいと考えた。

本ワークショップでは、まず、東日本大震災および福島第一原発事故を契機として発生した様々な社会現象にたいして、二つのグループが進めてきた研究のダイジェストを紹介する。その上で2名の指定討論者から、これからどのような研究が求められるか、東日本大震災の話に加え、今後も生じる様々な災害や事故への対応という視点をも含んで、提案を得る。そしてフロアをも巻き込む形で、今後必要となる研究、今後進めていきたい研究について議論を盛り上げたい。ディスカッションの中から具体的な研究の芽が見つかり、その後の研究プロジェクトへと発展するようなワークショップとなることを目指す。

パーソナリティ

座長 川本 大史

- | | | | |
|--------|---|---|---|
| O101-1 | 9:00 ~ 9:15
好奇心旺盛な人は拒絶の悪影響を受けにくい | ○川本 大史
浦 光博
開 一夫 | 東京大学・日本学術振興会
追手門学院大学
東京大学 |
| O101-2 | 9:15 ~ 9:30
マインドワンダリングと創造性および精神的健康に関する検討 | ○山岡 明奈
湯川 進太郎 | 筑波大学
筑波大学 |
| O101-3 | 9:30 ~ 9:45
自己価値の随伴性と職場の価値観との不一致が従業員に及ぼす影響 | ○金子 祥恵
内田 由紀子
中山 真孝
竹村 幸祐
伊藤 篤希 | 九州大学・京都大学
京都大学
京都大学
滋賀大学
京都大学 |
| O101-4 | 9:45 ~ 10:00
パーソナリティ障害傾向と友人に対する接近-回避葛藤との関連
—山アラシ・ジレンマからの検討— | ○市川 玲子
外山 美樹 | 筑波大学・日本学術振興会
筑波大学 |
| O101-5 | 10:00 ~ 10:15
家族樹形図療法の理論と実践 | ○高山 智
北條 愛 | 青山学芸心理
青山学芸心理 |

O102 口頭発表

第1日 (9月17日) 9:00 ~ 10:15

社会学部202

組織

座長 池田 浩

- | | | | |
|--------|--|-------------------------|------------------------|
| O102-1 | 9:00 ~ 9:15
勇敢で献身的なフォロワーシップの生起要因に関する研究 | ○池田 浩 | 九州大学 |
| O102-2 | 9:15 ~ 9:30
集団内地位を規定する2種類のルート | ○杉浦 仁美
早瀬 良
坂田 桐子 | 立命館大学
中部大学
広島大学 |
| O102-3 | 9:30 ~ 9:45
職場のダイバーシティの心理的影響と、組織風土の調整効果
性別とキャリア志向のダイバーシティに着目して | ○正木 郁太郎
村本 由紀子 | 東京大学
東京大学 |
| O102-4 | 9:45 ~ 10:00
就活支援におけるコーチングの効果
—学生の就活満足度や入社後不安に及ぼす効果の検証— | ○今城 志保 | (株)リクルートマネジメントソリューションズ |
| O102-5 | 10:00 ~ 10:15
組織を責める根拠の日米比較 | ○膳場 百合子 | 早稲田大学 |

対人的相互作用

座長 品田 瑞穂

- | | | | |
|--------|---|---|---|
| O103-1 | 9:00 ~ 9:15
ソーシャルスキルの自己認知が対人認知に及ぼす影響 | ○品田 瑞穂 | 東京学芸大学 |
| O103-2 | 9:15 ~ 9:30
外見的魅力は前頭前皮質の体積を予測する | ○高岸 治人
松本 良恵
李 楊
Alan Fermin
金井 良太
山岸 俊男 | 玉川大学
玉川大学
玉川大学
玉川大学
Araya Brain Imaging
一橋大学 |
| O103-3 | 9:30 ~ 9:45
対人関係の質的・量的側面と思考制御との関連
破局的思考の緩和傾向を用いたパネルデータによる検討 | ○源氏田 憲一 | 相模女子大学 |
| O103-4 | 9:45 ~ 10:00
QOLの規定因に関する世代間比較
物質的豊かさの不足を補う要因に関する検討 | ○福沢 愛
片桐 恵子
増本 康平
長ヶ原 誠
近藤 徳彦
岡田 修一 | 神戸大学
神戸大学
神戸大学
神戸大学
神戸大学
神戸大学 |
| O103-5 | 10:00 ~ 10:15
ストレスフルな体験の意味づけに関する縦断的検討 | ○上條 菜美子
湯川 進太郎 | 筑波大学・日本学術振興会
筑波大学 |

O104 口頭発表

第1日 (9月17日) 10:30 ~ 12:00

E号館102

身近な人間関係

座長 谷口 淳一

- | | |
|---|---|
| <p>O104-1 10:30 ~ 10:45
友人からの評価が親密さの認知に与える影響
—関係的自己との差異からの検討—</p> | <p>○谷口 淳一 帝塚山大学</p> |
| <p>O104-2 10:45 ~ 11:00
Sociosexualityと街中での話しかけ方</p> | <p>○仲嶺 真 筑波大学・日本学術振興会</p> |
| <p>O104-3 11:00 ~ 11:15
成人期母娘の就労状況と母から娘へのサポート提供の
関連
—無職の母親は有職の母親に比べて娘へのサポート提
供を行っているか—</p> | <p>○水野(島谷)いずみ 実践女子大学
片桐 恵子 神戸大学</p> |
| <p>O104-4 11:15 ~ 11:30
“No” というコミュニケーションが防ぐのは暴力の生起か
反復か?
—非協調的志向性による暴力抑制効果がみられるタイ
ミング—</p> | <p>○相馬 敏彦 広島大学</p> |
| <p>O104-5 11:30 ~ 11:45
「一途さ」のアピールはどこでも効果的か?
—コミットメント表明の有効性に及ぼす対人関係流動性
の影響—</p> | <p>○山田 順子 北海道大学
結城 雅樹 北海道大学</p> |
| <p>O104-6 11:45 ~ 12:00
親密な関係者からのストーキング被害時の援助要請に
影響する要因
—若年女性のストーキング被害と意思決定に関する研
究 (3)—</p> | <p>○島田 貴仁 科学警察研究所</p> |

O105 口頭発表

第1日 (9月17日) 10:30 ~ 12:00

E号館206

政治行動・世論

座長 小林 哲郎

- | | | | |
|--------|--|--------------------------|------------------------------|
| O105-1 | 10:30 ~ 10:45
人は検索によって正しい情報にたどり着けるのか
在日コリアンに関する誤情報を用いた実験 | ○小林 哲郎
高 史明
鈴木 貴久 | 香港城市大学・神戸大学
東京大学
津田塾大学 |
| O105-2 | 10:45 ~ 11:00
選抜されたメンバーによる多数決：コンピュータ・シミュレーションによる概念的検討 | ○中分 遥
竹澤 正哲 | 北海道大学
北海道大学 |
| O105-3 | 11:00 ~ 11:15
人はなぜ「政治」から距離をおくのか：政治参加に伴う不平等性が政治的非関与に及ぼす効果 | ○横山 智哉
千葉 柚子
稲葉 哲郎 | 一橋大学
一橋大学
一橋大学 |
| O105-4 | 11:15 ~ 11:30
世論調査への関心と政治的寛容性 | ○安野 智子 | 中央大学 |
| O105-5 | 11:30 ~ 11:45
テレビ報道番組への接触が投票義務感に与える影響 | ○大森 翔子
平野 浩 | 学習院大学
学習院大学 |
| O105-6 | 11:45 ~ 12:00
政党党首の「声」と有権者による党首評価・政党評価 | ○岡田 陽介 | 立教大学 |

O106 口頭発表

第1日 (9月17日) 10:30 ~ 12:00

社会学部202

社会問題・リスク

座長 杉浦 淳吉

- | | | | |
|--------|---|----------------------------------|--|
| O106-1 | 10:30 ~ 10:45
階層間格差の葛藤とその解消への合意
ゲーミング・シミュレーションによる検討 | ○杉浦 淳吉
吉川 肇子 | 慶應義塾大学
慶應義塾大学 |
| O106-2 | 10:45 ~ 11:00
リスク認知尺度の推移性から見た妥当性の検討 | ○武藤 杏里
原口 僚平
竹村 和久 | 早稲田大学
早稲田大学
早稲田大学 |
| O106-3 | 11:00 ~ 11:15
地震長期予測地図のデザイン改善によるリスクコミュニケーション効果の検討 | ○広田 すみれ
大木 聖子 | 東京都市大学
慶應義塾大学 |
| O106-4 | 11:15 ~ 11:30
指定廃棄物の処分場立地調査受容の規定因への感情の調整効果 | ○大友 章司
広瀬 幸雄
大澤 英昭
大沼 進 | 甲南女子大学
関西大学
日本原子力研究開発機構
北海道大学 |
| O106-5 | 11:30 ~ 11:45
東日本大震災後のリスク不安の変化(4) | ○中谷内 一也
長谷 和久 | 同志社大学
同志社大学 |
| O106-6 | 11:45 ~ 12:00
災害被害者の責任帰属についての検証
テロは殺人とは違うのか | ○竹内 穂乃佳
釘原 直樹 | 大阪大学
大阪大学 |

O107 口頭発表

第1日 (9月17日) 10:30 ~ 12:00

H号館201

文化

座長 竹村 幸祐

- | | | | |
|--------|---|----------------------------------|-----------------------------------|
| O107-1 | 10:30 ~ 10:45
集合知を支える相互独立文化：文脈効果の検討 | ○竹村 幸祐 | 滋賀大学 |
| O107-2 | 10:45 ~ 11:00
日本人と中国人は葛藤状況のコミュニケーションで何が違うのか？
—行動的役割演技法を用いた実験的アプローチ— | ○木村 昌紀
毛 新華 | 神戸女学院大学
神戸学院大学 |
| O107-3 | 11:00 ~ 11:15
被服行動の日タイ比較 | ○平松 隆円 | Suan Sunandha Rajabhat University |
| O107-4 | 11:15 ~ 11:30
Culture, Social Rejection and Choice Deprivation | ○アイゼン カリス
石井 敬子 | 神戸大学
神戸大学 |
| O107-5 | 11:30 ~ 11:45
文化伝達による科学的発見の促進：実験的検討 | ○須山 巨基
木下 瞳
笹川 采佳
竹澤 正哲 | 北海道大学・日本学術振興会
MDI
北海道大学 |
| O107-6 | 11:45 ~ 12:00
適応戦略としての作為・不作為
—トロッコ問題を用いた比較社会的検討— | ○山本 翔子
結城 雅樹 | 北海道大学
北海道大学 |

メディア・消費

座長 中西 大輔

- | | |
|--|--|
| <p>O201-1 8:45 ~ 9:00
人はなぜ買い控えをするのか
福島第一原子力発電所事故による買い控え行動に関する調査</p> | <p>○中西 大輔 広島修道大学
井川 純一 広島文化学園大学
横田 晋大 総合研究大学院大学</p> |
| <p>O201-2 9:00 ~ 9:15
ソーシャルゲームの社会的要素と社会的文脈
内容分析と縦断研究による分析</p> | <p>○渋谷 明子 創価大学
寺本 水羽 お茶の水女子大学
祥雲 暁代 お茶の水女子大学
秋山 久美子</p> |
| <p>O201-3 9:15 ~ 9:30
SNS 橋渡し型社会関係資本の社会比較研究
—社会生態学的検討—</p> | <p>○Robert Thomson 北海道大学・日本学術振興会
Adriana Manago Western Washington University
Chelsea Melton Western Washington University</p> |
| <p>O201-4 9:30 ~ 9:45
新聞から見る小泉政権における靖国神社参拝問題
—朝日と産経の検証結果をもとに—</p> | <p>○張 騰飛 早稲田大学</p> |
| <p>O201-5 9:45 ~ 10:00
詐欺・悪質商法被害者の心理 (2)
詐欺被害者が受けた欺瞞的説得方略についての検討</p> | <p>○西田 公昭 立正大学</p> |
| <p>O201-6 10:00 ~ 10:15
ネットショッピング依存傾向尺度の作成
—尺度の開発と信頼性・妥当性の検討—</p> | <p>○池内 裕美 関西大学</p> |

社会的認知

座長 樋口 収

- | | | | |
|--------|--|---|--|
| O202-1 | 8:45 ~ 9:00
福島第一原発事故に伴う風評被害の収束にむけて
食品の安全性を説明するリーフレットの有効性の検討 | ○樋口 収
埴田 健司 | 北海道教育大学
東京未来大学 |
| O202-2 | 9:00 ~ 9:15
音楽を聴いてリラックスすることで制御資源は回復するか | ○津村 健太
村田 光二 | 一橋大学
一橋大学 |
| O202-3 | 9:15 ~ 9:30
分配方法の評価に outcome bias が与える影響の検討 | ○齋藤 美松
松元 洋亮
亀田 達也 | 東京大学・日本学術振興会
東京大学
東京大学 |
| O202-4 | 9:30 ~ 9:45
時間割引における衝動性とセロトニン受容体遺伝子多型 | ○石井 敬子
松永 昌宏
野口 泰基
山末 英典
越智 美早
大坪 庸介 | 神戸大学
愛知医科大学
神戸大学
東京大学
神戸大学
神戸大学 |
| O202-5 | 9:45 ~ 10:00
「棚ぼた」的に得た資金はギャンブルに用いられやすいか
資金の獲得方法が自他それぞれのリスク下の意思決定に与える影響の検討 | ○上島 淳史
亀田 達也 | 東京大学
東京大学 |
| O202-6 | 10:00 ~ 10:15
Do ambivalence promote formation of ambivalent social networks?
The effect of attitude ambivalence on social selection | ○平島 太郎
五十嵐 祐 | 名古屋大学
名古屋大学 |

集団1

座長 三船 恒裕

- | | | | |
|--------|--|-------------------------------------|--------------------------------------|
| O203-1 | 8:45 ~ 9:00
攻撃力の非対称性に基づく外集団攻撃
先制攻撃ゲームを用いた最小条件集団実験 | ○三船 恒裕 | 高知工科大学 |
| O203-2 | 9:00 ~ 9:15
母集団分布に正規性を仮定しない項目反応理論
社会的支配志向性尺度による正当化神話の推定 | ○清水 裕士
杉浦 仁美
平川 真 | 関西学院大学
立命館大学
広島大学 |
| O203-3 | 9:15 ~ 9:30
物質罰から象徴罰へ：文化的集団淘汰に依らない罰
の進化 | ○土田 修平
竹澤 正哲 | 北海道大学
北海道大学 |
| O203-4 | 9:30 ~ 9:45
相利協働行動は利他行動を促進するか？ | ○井上 裕香子
熊谷 嘉人
長谷川 寿一
清成 透子 | 東京大学
大和ハウス工業(株)
東京大学
青山学院大学 |
| O203-5 | 9:45 ~ 10:00
サンクション制度への自発的参加と効果の比較 | ○稲葉 美里
高橋 伸幸
勝浦 聖奈 | 北海道大学
北海道大学
北海道大学 |
| O203-6 | 10:00 ~ 10:15
友だちグループ間の地位が学級適応感に与える影響
知覚されたグループ間地位と社会的支配志向性に着目
して | ○水野 君平
太田 正義 | 北海道大学
常葉大学 |

態度

座長 武藤 麻美

- | | | | |
|--------|---|--------------------------|------------------------|
| O204-1 | 10:30 ~ 10:45
マイノリティに対する社会的距離の構造
—障害者の地域生活支援を目的として— | ○武藤 麻美 | 東海学院大学 |
| O204-2 | 10:45 ~ 11:00
Why is ostracism adopted as a legal sanction?
The effect of different rationales based on criminal law theory | ○玉井 颯一
五十嵐 祐 | 名古屋大学・日本学術振興会
名古屋大学 |
| O204-3 | 11:00 ~ 11:15
フレーミング効果を用いた大腸がん検診の受診行動に対するテイラードメッセージ介入の効果に関する無作為化比較試験 | ○平井 啓 | 大阪大学 |
| O204-4 | 11:15 ~ 11:30
道徳基盤のプライミングが道徳葛藤課題への反応に及ぼす影響
—内集団への便宜供与を止める— | ○北村 英哉
高田 菜美
氏原 令賀 | 関西大学
関西大学
関西大学 |
| O204-5 | 11:30 ~ 11:45
資源配分の公正判断が援助要請の回避に及ぼす影響 | ○鈴木 伸哉
五十嵐 祐 | 名古屋大学
名古屋大学 |
| O204-6 | 11:45 ~ 12:00
知識の活性化が欺瞞的説得への抵抗に及ぼす影響
—精緻化見込みモデルからの検討— | ○大工 泰裕
釘原 直樹 | 大阪大学
大阪大学 |

価値意識・社会化

座長 高 史明

- | | |
|--|---|
| <p>O205-1 10:30 ~ 10:45
インターネットの使用形態と在日コリアンへのレイシズム (2)
媒介要因に注目した検討</p> | <p>○高 史明 東京大学</p> |
| <p>O205-2 10:45 ~ 11:00
Judgments of Moral Character with Positive and Negative Intentions</p> | <p>○ヒロザワ パウラユミ 名古屋大学
唐澤 穰 名古屋大学
松尾 朗子 名古屋大学</p> |
| <p>O205-3 11:00 ~ 11:15
日本における道德違反状況の特徴と道德観</p> | <p>○松尾 朗子 名古屋大学
唐沢 穰 名古屋大学
Vinai Norasakkunkit Gonzaga University</p> |
| <p>O205-4 11:15 ~ 11:30
異文化における滞在が価値観や行動の変容に及ぼす影響
—中国人留学生を対象として—</p> | <p>○呂 珂 東京都市大学
山崎 瑞紀 東京都市大学</p> |
| <p>O205-5 11:30 ~ 11:45
社会化エージェントの多層的影響に関する研究 (17)
—担任教師の指導スタイルにおける1年次と3年次の一貫性が中学生の向社会性に与える影響—</p> | <p>○吉田 琢哉 岐阜聖徳学園大学
吉澤 寛之 岐阜大学
原田 知佳 名城大学
浅野 良輔 久留米大学
玉井 颯一 名古屋大学・日本学術振興会
吉田 俊和 岐阜聖徳学園大学</p> |
| <p>O205-6 11:45 ~ 12:00
社会化エージェントの多層的影響に関する研究 (18)
—エージェント潜在クラスが中学生の反社会性に及ぼす因果的影響—</p> | <p>○吉澤 寛之 岐阜大学
吉田 琢哉 岐阜聖徳学園大学
原田 知佳 名城大学
浅野 良輔 久留米大学
玉井 颯一 名古屋大学・日本学術振興会
吉田 俊和 岐阜聖徳学園大学</p> |

O206 口頭発表

第2日 (9月18日) 10:30 ~ 12:00

社会学部202

集団2

座長 藤原 健

- | | | | |
|--------|--|--------------------------|-------------------------------|
| O206-1 | 10:30 ~ 10:45
小集団コミュニケーションにおける成員間のシンクロニー | ○藤原 健 | 大阪経済大学 |
| O206-2 | 10:45 ~ 11:00
山梨県富士吉田市の御師の現状
—御師へのインタビュー調査から— | ○Shreya Wagh | 大東文化大学 |
| O206-3 | 11:00 ~ 11:15
大相撲八百長問題が勝敗分布に与えた影響
週刊現代・週刊ポスト報道や技量審査場所以前と以降 | ○釘原 直樹 | 大阪大学 |
| O206-4 | 11:15 ~ 11:30
「証拠の欠如」と社会的規範の帰納的学習：実験的検討 | ○喜多 敏正
竹澤 正哲 | 北海道大学
北海道大学 |
| O206-5 | 11:30 ~ 11:45
小集団における集団規範の変容過程
—大学祭運営規約改編会議の議事録を対象として— | ○尾関 美喜 | 東京国際大学 |
| O206-6 | 11:45 ~ 12:00
カーブを応援し続けるのはなぜか？
—カーブファンを対象とした集団地位の効果の検討— | ○中川 裕美
横田 晋大
中西 大輔 | 広島修道大学
総合研究大学院大学
広島修道大学 |

社会的交換

座長 横田 晋大

- | | | | |
|--------|---|---|---|
| O207-1 | 10:30 ~ 10:45
社会的アイデンティティの誇示と葛藤回避機能 | ○横田 晋大
三船 恒裕 | 総合研究大学院大学
高知工科大学 |
| O207-2 | 10:45 ~ 11:00
対応バイアスの合理性：ベイズ推定モデルを用いた実証的検討 | ○竹澤 正哲
菊地 大星
海野 蓉子 | 北海道大学
北海道大学
北海道大学 |
| O207-3 | 11:00 ~ 11:15
戒めか報復か？：シャーデンフロイデの喚起要因としてのサンクション行動傾向 | ○石井 辰典
澤田 匡人 | 東京成徳大学
宇都宮大学 |
| O207-4 | 11:15 ~ 11:30
不公平分配に対する行動の神経基盤の個人差 | ○中村 文彦
後藤 晶
藤井 貴之
Alan Fermin
宮崎 淳
高岸 治人 | 玉川大学
山梨英和大学
玉川大学・日本学術振興会
玉川大学
玉川大学
玉川大学 |
| O207-5 | 11:30 ~ 11:45
向社会的行動の遺伝・神経基盤の解明
アルギニンバソプレシン受容体V1a遺伝子による検討 | ○仁科 国之
高岸 治人
Alan Fermin
金井 良太
井上-村山 美穂
高橋 英彦
山岸 俊男 | 玉川大学
玉川大学
玉川大学
Araya Brain Imaging
京都大学
京都大学
一橋大学 |
| O207-6 | 11:45 ~ 12:00
集団における協力の伝染：恩送り型と評判型交換の比較 | ○堀田 結孝
竹澤 正哲
金城 卓司
中分 遥
増田 直紀 | 国立情報学研究所・JST
北海道大学
北海道大学
北海道大学
ブリストル大学 |

環境・災害

座長 八ッ塚 一郎

- | | | | |
|--------|---|---|--|
| O208-1 | 14:00 ~ 14:15
熊本地震に関する報告と検討(1)
初期学校支援ボランティア活動について | ○八ッ塚 一郎 | 熊本大学 |
| O208-2 | 14:15 ~ 14:30
函館夜景LED化に対する資金提供意思額の規定因 | ○小林 翼
安保 芳久
中俣 友子
飯野 麻里
横山 実紀
森 康浩
大沼 進 | 北海道大学
北海道環境財団
函館短期大学
北海道大学
北海道大学
北海道大学
北海道大学 |
| O208-3 | 14:30 ~ 14:45
不参加者のいる話し合いが協力と負担の偏りにもたらす効果：ごみステーション管理を例にしたゲーム実験 | ○北梶 陽子
大沼 進 | 高知工科大学
北海道大学 |
| O208-4 | 14:45 ~ 15:00
環境配慮行動と行動阻害要因が社会的波及効果に及ぼす影響
札幌市環境基本計画改定を題材とした検討 | ○森 康浩
小林 翼
大沼 進 | 北海道大学
北海道大学
北海道大学 |
| O208-5 | 15:00 ~ 15:15
小型地震動シミュレータを用いた震度の体感に関する実験的研究 | ○杉山 高志
矢守 克也
黒田 真吾 | 京都大学
京都大学
白山工業(株) |
| O208-6 | 15:15 ~ 15:30
コミュニティの中でフリーライダーは黙認される？
社会関係資本の維持を目的とした正当性の抑制 | ○野波 寛
田代 豊
坂本 剛
大友 章司 | 関西学院大学
名桜大学
名古屋産業大学
甲南女子大学 |

感情・動機

座長 一言 英文

- | | | | |
|--------|---|---------------------------|----------------------|
| O209-1 | 14:00 ~ 14:15
心理的負債感尺度英語版の標準化
日米学生を対象として | ○一言 英文 | 京都大学 |
| O209-2 | 14:15 ~ 14:30
不確実性脅威が義務遵守・違反に対する感情的反応
に及ぼす影響 | ○寺寫 裕登
高井 次郎 | 名古屋大学
名古屋大学 |
| O209-3 | 14:30 ~ 14:45
感謝感情喚起手法としての「感謝の手紙」の内容分析 | ○吉野 優香
相川 充 | 筑波大学・日本学術振興会
筑波大学 |
| O209-4 | 14:45 ~ 15:00
規範の共有性が義憤に与える影響 | ○小西 直喜
田中 佳南子
大坪 庸介 | 神戸大学
神戸大学
神戸大学 |
| O209-5 | 15:00 ~ 15:15
ノスタルジアが本来感にもたらす影響に関する実験的
検討 | ○長峯 聖人
外山 美樹 | 筑波大学
筑波大学 |
| O209-6 | 15:15 ~ 15:30
ポジティブな懐かしさ感情の加齢による増大
社会情動的選択性理論に基づく検討 | ○楠見 孝 | 京都大学 |

O210 口頭発表

第2日 (9月18日) 14:00 ~ 15:30

社会学部 202

集団3

座長 清成 透子

- | | |
|--|---|
| <p>O210-1 14:00 ~ 14:15
 集団内の上下関係がテストステロンの働きに与える影響：Ultimatum Gameの意思決定を通じた検討</p> | <p>○清成 透子 青山学院大学
 高橋 泰城 北海道大学
 Robert Burris Northumbria University
 新井 さくら 東京大学
 井上 裕香子 東京大学
 山岸 俊男 一橋大学</p> |
| <p>O210-2 14:15 ~ 14:30
 誰が犠牲となるべきか；Missing Hero Dilemma
 一責任分散状況においてその配分を規定する功利主義的社会規範一</p> | <p>○清水 計法 大阪大学
 釘原 直樹 大阪大学</p> |
| <p>O210-3 14:30 ~ 14:45
 二者の相互作用による知覚傾向の収束：心理物理的技法によるSherif実験再訪</p> | <p>○黒田 起吏 東京大学
 為井 智也 奈良先端科学技術大学院大学
 池田 和司 奈良先端科学技術大学院大学
 亀田 達也 東京大学</p> |
| <p>O210-4 14:45 ~ 15:00
 メンバーの社会性が集団パフォーマンスに与える影響
 一他者の感情理解と自己制御に着目したマルチレベル分析による検討一</p> | <p>○原田 知佳 名城大学
 土屋 耕治 南山大学</p> |
| <p>O210-5 15:00 ~ 15:15
 合議は集合知を生むか
 一集約プロセスが集団意思決定の精度に及ぼす影響一</p> | <p>○金 惠璘 北海道大学・日本学術振興会
 中塚 亮太 東京大学
 亀田 達也 東京大学</p> |
| <p>O210-6 15:15 ~ 15:30
 話し合いにおける第一声情報の共有性の有無が集団意思決定に与える影響</p> | <p>○松崎 さくら 大阪大学
 樋口 匡貴 上智大学</p> |

対人的コミュニケーション

座長 五十嵐 祐

- | | | |
|--|--|---|
| <p>O211-1 14:00 ~ 14:15
How does Emotional Intelligence expand social relationships? A perspective from network-based personal communities</p> | <p>○五十嵐 祐
平島 太郎</p> | <p>名古屋大学
名古屋大学</p> |
| <p>O211-2 14:15 ~ 14:30
「ごめんね」だけでは誠意は伝わらない
謝罪-赦し関係に関するfMRI研究</p> | <p>○大坪 庸介
松永 昌宏
田中 大貴
小林 章雄
柴田 英治
堀 礼子
梅村 朋弘
大平 英樹</p> | <p>神戸大学
愛知医科大学
神戸大学
愛知医科大学
愛知医科大学
愛知医科大学
愛知医科大学
名古屋大学</p> |
| <p>O211-3 14:30 ~ 14:45
対人場面における表情模倣と共感性の関連</p> | <p>○谷田 林士
石井 麻莉
内藤 千明</p> | <p>大正大学
(株)システナ
(株)ワークスアプリケーションズ</p> |
| <p>O211-4 14:45 ~ 15:00
日韓大学生のパーソナリティがタッチ性向に及ぼす影響</p> | <p>○曹 美庚
釘原 直樹</p> | <p>阪南大学
大阪大学</p> |
| <p>O211-5 15:00 ~ 15:15
感謝の素振りと気持ちの有無が援助行動に及ぼす影響
—「ありがとう」さえ言えばまた助けてもらえる?—</p> | <p>○蔵永 瞳</p> | <p>滋賀大学</p> |
| <p>O211-6 15:15 ~ 15:30
公正・不公正分配に対する第三者による介入行動の検討</p> | <p>○佐々木 駿太
中西 大輔
井川 純一
大坪 庸介</p> | <p>神戸大学
広島修道大学
広島文化学園大学
神戸大学</p> |

P11 ポスター発表

第1日 (9月17日) 14:15 ~ 15:45

H号館ラウンジ

在席責任時間 枝番の奇数番号 : 14:15 ~ 15:00 偶数番号 : 15:00 ~ 15:45

P1101	就職活動における不採用経験への対処に及ぼすセルフコンパッションの影響の検討	○宮川 裕基 谷口 淳一	帝塚山大学 帝塚山大学
P1102	嗜好品と自己回帰との関係 (2) 本来感剥奪場面からの自己回帰過程における心理的効果の検討	○中間 玲子	兵庫教育大学
P1103	新たな潜在的自尊心の測定方法の検討 — 名前への選好を指標として —	○藤井 勉 澤海 崇文 相川 充	長崎大学・NPO法人教育テスト研究センター (CRET) 神奈川大学・CRET 筑波大学・CRET
P1104	犯罪加害者への非難に及ぼす加害者の性質とサイコパシーの影響	○増井 啓太	追手門学院大学
P1105	ネコ好き・イヌ好きとパーソナリティの多面性	○田島 司	北九州市立大学
P1106	嗜好品摂取と規範の関連に対するセルフコントロールの調整効果	○後藤 崇志 楠見 孝	京都大学 京都大学
P1107	シャーデンフロイデに関する一研究 妬み場面と妬み対象との親密度に着目して	○本山 夏希 堀毛 一也	東洋大学 東洋大学
P1108	Mortality SalienceとMeaning Threatが感情反応と文化的世界観防衛に与える影響 — 自尊心の調整効果を考慮した検討 —	○戸谷 彰宏 中島 健一郎	広島大学 広島大学
P1109	目標階層モデル 目標の抽象度が困難の解釈に及ぼす影響	○及川 晴 及川 昌典	同志社大学・日本学術振興会 同志社大学
P1110	○×法が心理的不快感に与える効果の検証	○深瀬 菜瑛子	東洋大学
P1111	黒色または白色の衣服が着用者の非道徳的行動に与える効果	○上林 憲司 村田 光二	(株)大和総研 一橋大学
P1112	仕事・家庭への接近・回避動作が潜在的自己認知と性役割態度に及ぼす影響	○埴田 健司	東京未来大学
P1113	道徳判断が視線による自動的な注意誘導に与える影響	○白井 理沙子 小川 洋和	関西学院大学 関西学院大学
P1114	見知らぬ他者の存在がもたらす時間割引の抑制効果	○柳澤 邦昭 阿部 修士	京都大学 京都大学
P1115	非現実的楽観性 (ポジティブイリュージョン) の再検討 一般生起確率要因の考慮と測定法の検討	○福留 広大 森永 康子	広島大学・日本学術振興会 広島大学
P1116	失敗場面における帰属傾向と先延ばし特性の関連の検討	○黒住 嶺	筑波大学
P1117	クラスの瘦身行動が個人の瘦身願望および行動に及ぼす影響 — 女子高校生を対象とした検討 —	○春田 悠佳 金丸 梢 樋口 匡貴	上智大学 (株)東京企画 上智大学

ポスター発表P11 第1日

P1118	不思議現象に対する態度改訂版尺度の妥当性検証 不思議現象に対する態度 (50)	○小城 英子 坂田 浩之 川上 正浩	聖心女子大学 大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学
P1119	批判的思考力テストの作成 不思議現象に対する態度 (51)	○坂田 浩之 川上 正浩 小城 英子	大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学
P1120	2者から異なる方向に説得される場合における被説得者の熟慮が態度に及ぼす影響の検討	○中村 早希 三浦 麻子	関西学院大学 関西学院大学
P1121	解釈レベル理論と精査可能性モデルの比較 時間的距離が社会的文脈の説得効果に及ぼす影響	○尾崎 拓	同志社大学・日本学術振興会
P1122	二者関係と三者関係の影響力の大きさを比較する	○小杉 考司 清水 裕士 水谷 聡秀 武藤 杏里 平川 真	山口大学 関西学院大学 関西大学 早稲田大学 広島大学
P1123	嘘をつくことに対する認識尺度の作成 (2) —妥当性の検討—	○太幡 直也	愛知学院大学
P1124	人狼ゲーム経験が欺瞞検知の正確性に及ぼす影響	○丹野 宏昭	東京福祉大学
P1125	援助要請の性差とその理由 (1) —全般的援助要請と文脈特定の援助要請における性差の再検討—	○石川 咲子 Claudia Gherghel 橋本 剛	静岡大学 静岡大学 静岡大学
P1126	援助要請の性差とその理由 (2) —援助要請の種類や文脈を考慮しての再検討—	○橋本 剛 Claudia Gherghel 石川 咲子	静岡大学 静岡大学 静岡大学
P1127	デートDVのリスク要因と関連性 (8) —依存的恋愛観と被害経験・ダメージの関連—	○松並 知子 赤澤 淳子 井ノ崎 敦子 上野 淳子 青野 篤子	武庫川女子大学 福山大学 徳島大学 四天王寺大学 福山大学
P1128	ストーカーについての実態調査 (1) —ストーカー的行為の被経験率ならびにパーソナリティ特性と被害深刻度との関連—	○金政 祐司 荒井 崇史 石田 仁 島田 貴仁 山本 功	追手門学院大学 追手門学院大学 日工組社会安全研究財団 科学警察研究所 淑徳大学
P1129	失恋時の思考・認知がストーキングに与える影響に関する探索的研究	○城間 益里	筑波大学
P1130	愛着スタイルがストーカー行為に及ぼす影響 離別に関する場面想定法を用いた検討	○荒井 崇史 金政 祐司 浦 光博	追手門学院大学 追手門学院大学 追手門学院大学
P1131	子育て中の母親における受容的サポートの影響 完全主義の二次元モデルを調整要因とした検討	○古谷 嘉一郎	北海学園大学
P1132	Narcissism helps you to give and receive social supports : Longitudinal changes in small group work	○加藤 仁 平島 太郎 佐藤 有紀 五十嵐 祐	名古屋大学 名古屋大学 日本エス・エイチ・エル(株) 名古屋大学

ポスター発表P11 第1日

P1133	援助行動の自律性についての被援助者の認知が被援助者のwell-beingに及ぼす影響	○竹部 成崇 村田 光二	一橋大学 一橋大学
P1134	対人ストレスに対する反応にパーソナリティが及ぼす影響	○山川 樹 村中 昌紀 坂本 真士	日本大学 日本大学 日本大学
P1135	対人疎外場面における共感性と自己複雑性の効果の検討	○新井 裕子	学習院大学
P1136	顔形態と顔形態に対する自己認知の関連 —男性的顔特徴を持つ者と女性的顔特徴を持つ者の比較を中心に—	○九島 紀子 上瀬 由美子	立正大学 立正大学
P1137	リーダーとフォロワー自身, および同僚の関係がリーダー評価に及ぼす影響	○森下 雄輔 谷口 淳一	神戸学院大学 帝塚山大学
P1138	中学運動部員の適応感を規定する部の連帯性と顧問教師の規律指導との関係	○吉村 斉	高知学園短期大学
P1139	準拠集団の差異は多元的無知と衆目下の行動を調整するか?	○宮島 健 山口 裕幸	九州大学 九州大学
P1140	サブリーダーの存在がリーダーの心理状態に及ぼす影響	○黒川 光流	富山大学
P1141	集団フォーマル性尺度(中学生・高校生版)の開発(1) —高校生対象の検証—	○新井 洋輔 市村 美帆 清水 直樹	東京福祉大学 目白大学 文京学院大学女子中学校高等学校
P1142	菓子と飲料が集団創造性に及ぼす効果1: アイディア量と成員評価	○飛田 操	福島大学
P1143	集団討議における勢力者の存在と意見の相違が個人の沈黙に及ぼす影響	○樽井 この美 五十嵐 祐	名古屋大学 名古屋大学
P1144	ラベリング戦略が加害者への評価に与える影響 評価者の認知資源による調整効果の検討	○寺口 司 釘原 直樹	大阪大学 大阪大学
P1145	若者における情報機器の所有動向の変化 スマートフォンとパソコン	○玉宮 義之	獨協大学
P1146	生活史と貧困プライミングが割引品の購入意図に与える影響(2)	○豊沢 純子 竹橋 洋毅	大阪教育大学 関西福祉科学大学
P1147	ポイント選好における認知的熟慮性の影響	○秋山 学 長谷川 晃一 上田 あすみ 吉野 絹子	神戸学院大学 神戸学院大学 神戸学院大学 神戸学院大学
P1148	ゲームアプリにおけるユーザーの利用動機と熱中度の関連性	○石井 祐貴	学習院大学
P1149	時間的観点と製品情報に関するメッセージが広告の好意度に及ぼす影響	○野添 健太	学習院大学
P1150	「写真はイメージです。」 スーパーのチラシにみる断り書きのパターン	○川浦 康至 川上 善郎	東京経済大学 前 成城大学

ポスター発表P11 第1日

P1151	ホモ・ノンポリティカス	○稲増 一憲 三浦 麻子 清水 裕士 小川 洋和	関西学院大学 関西学院大学 関西学院大学 関西学院大学
P1152	The Independents in Current Japan Society Focusing on effects of perceived social norms on emotional experiences	○パク ジュナ	名古屋商科大学
P1153	アメリカにおける状況的規範と感情状態 —個人主義—集団主義を指標とした個人差要因の検討—	○黒石 憲洋 佐野 予理子	日本教育大学院大学 関東学院大学
P1154	社会的逆境からの回復に関する基礎調査 (4) 中年期～高齢期の社会的逆境経験に関する日韓比較	○陸 英善 李 柱一 安藤 清志 堀毛 一也 大島 尚 高橋 幸子	東洋大学 翰林大学 東洋大学 東洋大学 東洋大学 東洋大学
P1155	文化が感謝表出と親切行動の自己決定的動機づけに与える影響 道徳基盤、互恵性規範と自由意志に着目して	○Claudia Gherghel 橋本 剛 Dorin Nastas	静岡大学 静岡大学 クザ大学
P1156	血液型差別に及ぼす放送倫理・番組向上機構 (BPO) 勧告の効果	○山岡 重行	聖徳大学
P1157	大学生の逆境体験とレジリエンス要因の関連の検討	○坂井 絵里香 堀毛 一也	東洋大学 東洋大学
P1158	いじめの選択的道徳不活性化についての研究	○大西 彩子	甲南大学
P1159	喫煙とライフスタイルとの関連における調整変数としての性別	○三好 美浩	岐阜大学
P1160	「将来世代のための」行動は存在するか —相手との時間的距離が資源分配に及ぼす影響—	○栗原 風音 白木 優馬 五十嵐 祐	名古屋大学 名古屋大学・日本学術振興会 名古屋大学
P1161	他者行動のフィードバックは電気使用量を減らせるか？	○安藤 香織 大沼 進 安達 菜穂子 田代 優秋	奈良女子大学 北海道大学 大阪市立大学 あおぞら財団
P1162	利用者間の信頼性低下がコモンズ管理者の正当性を向上させる？ —中国における漁業者と行政の相互評価—	○高 天琪 野波 寛	関西学院大学 関西学院大学
P1163	大規模地震災害発生時の行動予想 (II) —首都圏居住者の平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震発生時の経験による差異の検討—	○清水 裕	昭和女子大学
P1164	消防機関に対する市民の協力意図の規定因 信頼のTCCモデルによる検討	○塩谷 尚正 木村 昌紀	京都橘大学 神戸女学院大学
P1165	復興感における「環境復興」と復興拠点の利用意図	○前田 洋枝 渡邊 聡 松野 正太郎	南山大学 鈴鹿大学 名古屋大学

ポスター発表P11 第1日

P1166	東日本大震災による防災意識の変化と風化 中学校における継続的な取り組みからの知見	○中村 雅子	東京都市大学
P1167	コミュニティへの帰属心とオススメ行動との関係	○大戸 朋子 小松 恭子 新井田 統	KDDI 研究所 KDDI 研究所 KDDI 研究所
P1168	コミュニティ参入時点での態度が帰属心に与える影響	○小松 恭子 大戸 朋子 新井田 統	KDDI 研究所 KDDI 研究所 KDDI 研究所
P1169	地域の価値の共有感と社会関係資本 —京都府の都市・農村部を比較して—	○打田 篤彦 内田 由紀子 一言 英文 竹村 幸祐	京都大学 京都大学 京都大学 滋賀大学
P1170	思考抑制とストレス経験が反すうに及ぼす影響について の再検討	○服部 陽介	京都学園大学

P21 ポスター発表

第2日 (9月18日) 9:30 ~ 11:00

H号館ラウンジ

在席責任時間 枝番の奇数番号 : 9:30 ~ 10:15 偶数番号 : 10:15 ~ 11:00

P2101	Dark Triad Dirty Dozen 尺度の構造 —多母集団同時分析を用いて—	○田崎 優里 中島 健一郎 浦 光博	広島大学 広島大学 追手門学院大学
P2102	黙従傾向か敏感さか? —領域別不公平感の潜在クラス分析—	○木村 邦博	東北大学
P2103	複数回答形式質問における非遵守者の回答の影響	○増田 真也 坂上 貴之	慶應義塾大学 慶應義塾大学
P2104	自己の一貫性と多様性に着目した自分らしさが Well-being に及ぼす影響	○関森 真澄 長谷川 孝治	信州大学 信州大学
P2105	サイコパシーと攻撃性の関連に及ぼす共感性と注意の影響	○田村 紋女 杉浦 義典	広島大学・日本学術振興会 広島大学
P2106	ピンクの衣服が看護学生のキャリア意識と自己認知に及ぼす影響	○石井 国雄 加藤 樹里 田戸岡 好香 松崎 圭佑	清泉女学院大学 一橋大学 東京大学・日本学術振興会 首都大学東京
P2107	自己肯定化が目標の撤退に及ぼす影響 完全性追求の個人差を加えた検討	○小林 麻衣 下田 俊介 大久保 暢俊	立正大学 東洋大学 東洋大学
P2108	社会的苦境場面における罪悪感、羞恥感、屈辱感の分岐要因:「攻撃性」および「共感性」に焦点を当てて	○岸本 瑞羽	駿河台大学
P2109	一般サンプルにおける自己複雑性の適応的効果	○中島 実穂 丹野 義彦	東京大学・日本学術振興会 東京大学
P2110	面子意識と自尊心についての実験的検討 潜在連合テストを用いて	○林 萍萍 米谷 淳	神戸大学 神戸大学
P2111	セルフコントロール傾向と禁煙行動・ライフスタイルとの関連性 ～禁煙者・喫煙者・非喫煙者・前喫煙者サンプルの検討～	○小林 知博	神戸女学院大学
P2112	外見への投資は社会的適応を向上させるか	田中 恵美 ○石黒 格	日本女子大学・現 クロスヘッド(株) 日本女子大学
P2113	日常的な衝動抑制がセルフコントロール向上に及ぼす影響の検討	○沓澤 岳 尾崎 由佳 後藤 崇志 倉矢 匠 金子 迪大 湊 麻由佳	東洋大学 東洋大学 京都大学 東洋大学 東洋大学 東洋大学
P2114	焦点フレーミングと接近回避志向性が行動選択に及ぼす影響	○笹山 郁生	福岡教育大学
P2115	共感の正確性がもたらすもの —対人行動パターンと精神的健康に着目して—	○中島 健一郎 蔵永 瞳	広島大学 滋賀大学

ポスター発表P21 第2日

P2116	Grit 尺度の邦訳および信頼性・妥当性の検討	○竹橋 洋毅 樋口 収 尾崎 由佳 豊沢 純子 渡辺 匠	関西福祉科学大学 北海道教育大学 東洋大学 大阪教育大学 北海道教育大学
P2117	ユーモア志向性尺度の形態と動機による分類	○本郷 亜維子	放送大学
P2118	対人的後悔は学習を促進するか：カードゲーム課題を用いた検討	○小宮 あすか 後藤 崇志 日道 俊之 村山 航 榊 美知子	広島大学 京都大学 神戸大学 レディング大学 レディング大学
P2119	通信制大学の非同期型eラーニングにおいて理解度と動機づけを規定する要因	○大橋 恵	東京未来大学
P2120	Distraction (気晴らし) によるネガティブ感情の制御—注意移行対象の感情価に着目して—	○小林 亮太 宮谷 真人 中尾 敬	広島大学 広島大学 広島大学
P2121	予期的後悔が現状維持からの脱却に及ぼす影響 (3)	○道家 瑠見子	津田塾大学
P2122	他者からの評価に関する予測が間接的発言の解釈傾向に及ぼす影響	○平川 真	広島大学
P2123	達成目標プライムが遂行に及ぼす効果を自己注目が調整するか	○沼崎 誠 森川 健太 松崎 圭佑	首都大学東京 首都大学東京 首都大学東京
P2124	社会的排斥と時間選好 (1) 排斥経験が将来志向的な資源配分を促進する	○尾崎 由佳 金子 迪大	東洋大学 東洋大学
P2125	社会的排斥と時間選好 (2) 孤独感の高い未婚女性は時間割引率が低い	○金子 迪大 尾崎 由佳	東洋大学 東洋大学
P2126	ワーキングメモリキャパシティの個人差と自我消耗後の自己制御：読解問題における検討	○吉田 綾乃	東北福祉大学
P2127	自己調整学習方略の利用におけるメタ認知の働き—解釈レベルに着目した検討—	○寺田 未来	大手前大学
P2128	認知方略の相違が対人場面における感情・帰属及び心理的well-beingに与える影響	○冬賀 純恵 堀毛 一也	筑波大学 東洋大学
P2129	日本語の基本語彙の抽象度の評定 動詞・形容詞・形容動詞の比較	○山本 明	中部大学
P2130	首の動きはプライミング効果を調整するか？	○森川 健太 沼崎 誠	首都大学東京 首都大学東京
P2131	態度の見抜かれ感が信頼評価に与える影響	○静間 健人 土田 昭司	関西大学 関西大学
P2132	視点取得がもたらす異なる2つの効果 中年男性をターゲットとしての検討	○工藤 恵理子 関戸 朝美 八角 英美恵	東京女子大学 東京女子大学 東京女子大学

ポスター発表P21 第2日

P2133	正当性の防衛方略としての印象形成 正当性原理と現行社会の平等性	○矢田 尚也 池上 知子	大阪市立大学 大阪市立大学
P2134	人物情報の提示形式がターゲット人物の評定に及ぼす影響について —Narrative形式・List形式・Scramble形式による検討—	○金田 宗久 伊藤 君男	愛知学院大学 東海学園大学
P2135	対象への関心が国籍ラベル呈示による顔の印象変化に及ぼす影響	○八杉 和人 森 久美子	関西学院大学 関西学院大学
P2136	社会的比較と顔表情認知	○下田 俊介 大久保 暢俊	東洋大学 東洋大学
P2137	ステレオタイプが情報の伝達されやすさに与える影響 —言語的抽象度を用いたソーシャルメディア分析による検討—	○田中 友理 唐沢 穰 宮本 聡介	名古屋大学 名古屋大学 明治学院大学
P2138	同性の友人からのカミングアウトによる態度変容 女性異性愛者のジェンダー自尊心との関係	○鈴木 文子 池上 知子	大阪市立大学 大阪市立大学
P2139	自尊感情が成功・失敗の原因帰属に及ぼす影響	○遠山 素乃子 牧野 義隆 唐沢 穰	名古屋大学 中京大学 名古屋大学
P2140	公的組織への信頼感がリスク認知に及ぼす影響と知識量による調整効果 —電磁波を事例として—	○高木 彩 小森 めぐみ	千葉工業大学 四天王寺大学
P2141	暗黙理論が複数課題選択時の努力配分戦略に及ぼす影響	○相田 直樹 村本 由紀子	東京大学・現 (学)市川学園 東京大学
P2142	邦訳版ストレスマインドセット尺度の信頼性・妥当性の検討	○大久保 慧悟 竹橋 洋毅	ディップ(株) 関西福祉科学大学
P2143	官民協働刑務所に関する知識獲得と矯正施設に対する態度変容 矯正システム可視化の検討	○上瀬 由美子	立正大学
P2144	手続き的妥当性のある説得的メッセージの開発 —結果の望ましくなさ、生起性、回避性を操作して—	○立川 経康	法政大学
P2145	相対的自己評価と個人的社会観の関連の検討 —社会規範の探索的研究 (18) —	○岩淵 千明 小牧 一裕 森上 幸夫	川崎医療福祉大学 大阪国際大学 大阪国際大学
P2146	時間は誰のものか 時間に対する考え方と対人目標の関係	○新谷 優	法政大学
P2147	対人コミュニケーション効力感が適応感に及ぼす影響	○福田 哲也 成田 健一	上智大学 関西学院大学
P2148	シャイな人にとって重要なのは匿名性が視覚的他者不在か —シャイネスと顔合わせの有無がチャットによる発言量に及ぼす影響—	○小川 一美	愛知淑徳大学
P2149	ソシオメトリック・ステータスの対人行動への反映 —組織文化の違いが生み出すSMS獲得・維持の条件—	○伊藤 篤希 内田 由紀子 Matthias Gobel	京都大学 京都大学 University of California, Santa Barbara

ポスター発表P21 第2日

P2150	自己充足的一道具的コミュニケーション尺度の作成	○田崎 勝也	青山学院大学
P2151	初対面時の好感をもたらす非言語コミュニケーション	○梅野 利奈 渋谷 昌三	目白大学 目白大学
P2152	大学生のソーシャルスキルが主観的ウェルビーイングに及ぼす影響過程の検討 ～友人関係満足とソーシャルサポートを媒介変数として～	○酒井 智弘 谷口 淳一 相川 充	筑波大学 帝塚山大学 筑波大学
P2153	家族システムの発達と移行に関する研究 (8) 3年の時間経過による個人、夫婦関係、および家族の変化へのマルチレベル分析によるアプローチ	○石盛 真徳 小杉 考司 清水 裕士 藤澤 隆史 渡邊 太 武藤 杏里	追手門学院大学 山口大学 関西学院大学 福井大学 大阪国際大学 早稲田大学
P2154	異性の評価に相手の身体的魅力と同性他者の意見が及ぼす効果	○天野 陽一	首都大学東京
P2155	異性の行動から自分への好意をどの程度感じるか —ソーシャルスキルの影響—	○栗林 克匡	北星学園大学
P2156	子育てにおける「社会的代理人」選択に関する規定要因の検討 (1) —関係流動性とシャイネスの交互作用に着目して—	○西村 太志 片桐 咲恵 古谷 嘉一郎 相馬 敏彦 長沼 貴美	広島国際大学 山口大学 北海学園大学 広島大学 創価大学
P2157	子育てにおける「社会的代理人」選択に関する規定要因の検討 (2) —母親の性別役割態度に着目した社会的代理人選択の多様性の検討—	○片桐 咲恵 西村 太志 古谷 嘉一郎 相馬 敏彦 長沼 貴美	山口大学 広島国際大学 北海学園大学 広島大学 創価大学
P2158	「ふれ合い恐怖的心性」の対人関係について (3) 高校生調査から	○岡田 努	金沢大学
P2159	人間関係の親密さと怒りの感情表出 —ペア・データによる分析—	○上原 俊介 中川 知宏	鈴鹿医療科学大学 近畿大学
P2160	「恋人・結婚相手探しの場」としてのインターネット —利用者に対する評価についての日米比較研究—	○鬼頭 美江	明治学院大学
P2161	嫉妬はデートバイオレンス・ハラスメント被害化を促進するか 多次元的嫉妬尺度日本版の作成とDVの関連	○越智 啓太 喜入 暁 甲斐 恵利奈	法政大学 法政大学 法政大学
P2162	保育士の保護者に対する対人苦手意識がストレスに及ぼす影響	○日向野 智子 藤後 悦子 山極 和佳 角山 剛	東京未来大学 東京未来大学 東京未来大学 東京未来大学
P2163	対人援助職者のストレスと成長感・幸福感の関連	○中山 真	鈴鹿大学短期大学部
P2164	女性の就職活動における着装戦略	○遠藤 健治	青山学院大学
P2165	大学生の着装規範意識に関する研究 (1) 日常生活で経験する場面から	○牛田 好美 辻 幸恵	京都ノートルダム女子大学 神戸学院大学

ポスター発表P21 第2日

- | | | | |
|-------|--|----------------------------------|--------------------------------------|
| P2166 | 大学生の着装規範意識に関する研究
(2) フォーマルな場面に着目して | ○辻 幸恵
牛田 好美 | 神戸学院大学
京都ノートルダム女子大学 |
| P2167 | 制服着用経験がファッション関心度と集団主義傾向の
関係に与える影響についての一考察
—男女による影響の違いについて— | ○市川(向川) 祥子 | 神戸大学 |
| P2168 | 学生版フォロワーシップ尺度作成の試み | ○三木 博文
池上 知子 | 大阪市立大学
大阪市立大学 |
| P2169 | チームワークは継承されるか？
—協調迷路課題を用いた実験的検討— | ○秋保 亮太
縄田 健悟
池田 浩
山口 裕幸 | 九州大学・日本学術振興会
九州大学
九州大学
九州大学 |

P22 ポスター発表

第2日 (9月18日)

9:30 ~ 11:00

H号館ラーニングコモンズ1

在席責任時間 枝番の奇数番号 : 9:30 ~ 10:15 偶数番号 : 10:15 ~ 11:00

P2201	社会心理学によるUncertainty, Panic, Disaster への考察 —本人記述の短文再考、キーワード選定によるデータ 群設定からの時間経過認知—	○糸魚川 幸宏	ウィズダム・インク
P2202	逸脱児童の問題視を規定する学級集団特性の検討	○弓削 洋子 後藤 倫美	愛知教育大学 愛知教育大学
P2203	いじめの予兆検出における評判情報の利用 攻撃行動と評判生成の関連に着目した分析	○鈴木 貴久	津田塾大学
P2204	社会科学的解釈を好む人々の集団意思決定における 盲点	○林 幹也 竹村 和久 井出野 尚	明星大学 早稲田大学 早稲田大学
P2205	目的から逸脱した会議の評価に関する検討	○井出野 尚 坂上 貴之 藤井 聡 唐沢 かおり 羽鳥 剛史 林 幹也 高橋 英彦 玉利 祐樹 村上 始 竹村 和久	慶応義塾大学・早稲田大学 慶應義塾大学 京都大学 東京大学 愛媛大学 明星大学 京都大学 東京大学 早稲田大学 早稲田大学
P2206	社会的支配志向性および集団自尊心が差別的態度に 与える影響	○岡本 卓也	信州大学
P2207	組織における感謝感情はどのような波及効果を持つのか？ —制御焦点との関連性—	○三上 聡美 池田 浩 山口 裕幸	九州大学 九州大学 九州大学
P2208	大学生の性格特性が組織コミットメントに及ぼす影 響 (2) —個人と組織メンバーの性格特性の組み合わせ効果—	○石田 正浩 高木 浩人	京都府立大学 愛知学院大学
P2209	重力モデルによる風評被害の推定	○渋谷 和彦	情報・システム研究機構
P2210	職場流動性及び相互監視・相互扶助が労働時間に及 ぼす影響の検討	○王 瑋 坂田 桐子	広島大学 広島大学
P2211	沖縄系海外県人会の越境的ネットワークに関する研究 『第6回世界のウチナーンチュ大会』前の時点におい て	○加藤 潤三 前村 奈央佳	琉球大学 神戸市外国語大学
P2212	親しみやすさに影響するのは氏か育ちか —沖縄出身者の民族的・地理的同胞への親近性評価 について—	○前村 奈央佳 加藤 潤三	神戸市外国語大学 琉球大学
P2213	他者志向性とメディア利用の世代別検討	○大坪 寛子	慶應義塾大学

ポスター発表P22 第2日

P2214	青少年が視聴するテレビドラマの内容分析 —勤労観および働くことに対する価値観の描かれ方について—	○祥雲 暁代 田島 祥 麻生 奈央子 坂元 章	お茶の水女子大学 東海大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学
P2215	ドラマ視聴が中学生の働くことに対する価値観に及ぼす影響 —内容分析と縦断調査に基づく検討—	○田島 祥 祥雲 暁代 麻生 奈央子 坂元 章	東海大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学
P2216	ツイッターログとツイッター上の信頼の関連についての探索的分析	○河井 大介	東京大学
P2217	オンライン空間における感情表出と投稿動機の関係 ツイッターでのポジティブ感情語・ネガティブ感情語に着目して	○北村 智 河井 大介 佐々木 裕一	東京経済大学 東京大学 東京経済大学
P2218	自動翻訳を介したSNSでの国際交流が相手国の人々への態度に与える影響 (1) —直接接触・間接接触・事前知識獲得効果—	○寺本 水羽 松尾 由美 渋谷 恵 岩坪 千晶 田島 祥 坂元 章	お茶の水女子大学 関東短期大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 東海大学 お茶の水女子大学
P2219	高齢者のインターネット利用に対するリスク認知の特徴	○佐藤 広英 太幡 直也	信州大学 愛知学院大学
P2220	キャラクター好きな人の印象に関する調査	○藤井 達也	武蔵大学
P2221	テレビ視聴が職業の価値観に及ぼす影響 —キャリア形成準備の調整効果—	○麻生 奈央子 田島 祥 祥雲 暁代 坂元 章	お茶の水女子大学 東海大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学
P2222	スマートフォン依存傾向の親子間関係 小中高生の保護者向けスマホ教室の参加者のデータから	○土屋 耕治 奥田 太郎	南山大学 南山大学
P2223	イノベーションの普及過程における報道の変化	○山田 学 稲葉 哲郎	(株)NTTドコモ 一橋大学
P2224	共感と同情が消費者行動規範に及ぼす影響	○泉水 清志	育英短期大学
P2225	サンプルの属性は福島県産農産物の購買を規定するか? —3つの調査データからの検討—	○工藤 大介	同志社大学
P2226	サードプレイスの視点からみたカフェと茶館の消費行動	○倪 少文 石井 健一	筑波大学 筑波大学
P2227	家族旅行のオモテとウラ —不機嫌な夫と我儘な妻—	○林 幸史	大阪国際大学
P2228	大学のソーシャル・キャピタル, ネットワーク, 共同活動性および大学満足感の大学間差 —大学2年生における検証—	○芳賀 道匡 坂本 真士	日本大学 日本大学
P2229	在スイス日本人留学生の異文化間友人関係形成	○鉄川 大健 田中 共子	岡山大学 岡山大学

ポスター発表P22 第2日

P2230	地域活動への参加を促進する要因 (2) —流動性に注目して—	○岩谷 舟真 村本 由紀子	東京大学 東京大学
P2231	短期集中型の異文化適応スキル・トレーニングの持続効果 —来日初期の中国人留学生を対象に—	○毛 新華	神戸学院大学
P2232	異文化適応戦略と留学生の孤独感 社会的環境との適合性に注目して	○蔣 従楠 池上 知子 大澤 裕美佳	大阪市立大学 大阪市立大学 大阪市立大学
P2233	不運に対する公正推論の日米比較 信仰との関連	○村山 綾 三浦 麻子	近畿大学 関西学院大学
P2234	消防職員のピアサポート研修の効果検証① —研修の効果及び持続性について—	○沼田 真美 立脇 洋介 桑原 裕子 山本 陽一 松井 豊	筑波大学 大学入試センター 筑波大学 筑波大学 筑波大学
P2235	消防職員のピアサポート研修の効果検証② —傾聴に関するロールプレイの分析—	○立脇 洋介 沼田 真美 桑原 裕子 山本 陽一 松井 豊	大学入試センター 筑波大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学
P2236	社会的逆境からの個人的・社会的回復資源 (2) —経済的困窮からの回復・成長と主観的ウェル・ビーイングの関係—	○堀毛 一也 安藤 清志 大島 尚 堀毛 裕子 高橋 幸子	東洋大学 東洋大学 東洋大学 東北学院大学 東洋大学
P2237	対人場面における嗜好品摂取が気分状態及び幸福感に及ぼす影響	○横光 健吾 金井 嘉宏 平井 浩人 佐藤 健二 坂野 雄二	(公財) たばこ総合研究センター 東北学院大学 (公財) たばこ総合研究センター 徳島大学 北海道医療大学
P2238	日本とアメリカにおける Ambivalent Sexism Ambivalent Sexism Inventory (ASI) と Ambivalence toward Men Inventory (AMI) を用いて	○宇井 美代子 小田切 紀子 古村 健太郎 松井 豊	玉川大学 東京国際大学 新潟大学 筑波大学
P2239	促進的/抑制的ジェンダー規範は婚姻特性を反映しているか	○倉矢 匠 安藤 清志	東洋大学 東洋大学
P2240	同性愛に対する顕在的・潜在的態度と社会的望ましさ 反応との関係	○堀川 佑惟 岡 隆	日本大学 日本大学
P2241	高齢者の主観的 well-being に影響を及ぼす要因 ～テレビ視聴行動及びストレス・コーピングとの関連について～	○中嶋 励子	東京女子大学
P2242	認知症高齢者の要求および応答行動に関する検討 (4) —重度認知症高齢者と介護スタッフとの関わりに注目して—	○水上 喜美子 岩淵 千明	仁愛大学 川崎医療福祉大学

ポスター発表P22 第2日

P2243	コミュニティ評価尺度を用いた地域の意識調査 —再開発事業における事前調査として—	○三戸 千穂 稲垣 勝之 近藤 芳樹 小寺 克征 大津 雄一郎	東京ガス(株) 東京ガス(株) 東京ガス(株) 相鉄不動産(株) 相鉄不動産(株)
P2244	地域への愛着と社会関係資本が地域改善への意識に 及ぼす影響 —ウランバートル市ゲル地区再開発における行政の介 入機能に注目して—	○坂本 剛 滝口 良 井潤 裕	名古屋産業大学 北海道大学 北海道大学
P2245	ボランティア活動者のスキルと関連する要因の検討	○高橋 尚也	立正大学

P23 ポスター発表

第2日 (9月18日) 14:45 ~ 16:15

H号館ラウンジ

在席責任時間 枝番の奇数番号 : 14:45 ~ 15:30 偶数番号 : 15:30 ~ 16:15

P2301	心理調査におけるSatisficing回答傾向 (1) —紙筆版質問紙調査とWeb調査の比較—	○箕浦 有希久 高橋 伸彰 成田 健一	関西学院大学 関西学院大学 関西学院大学
P2302	心理調査におけるSatisficing回答傾向 (2) —調査年が異なる3つのWeb調査から—	○高橋 伸彰 箕浦 有希久 成田 健一	関西学院大学 関西学院大学 関西学院大学
P2303	Web調査におけるSD法と最小限化回答 (3) —質問提示順序とStraight-lining—	○山田 一成 江利川 滋	東洋大学 (株)TBSテレビ
P2304	Web調査におけるSD法と最小限化回答 (4) —Straight-lining規定因の再検討—	○江利川 滋 山田 一成	(株)TBSテレビ 東洋大学
P2305	シャイネスの発達的变化の検討	○澤海 崇文 藤井 勉 相川 充	神奈川大学・NPO法人教育テスト研究センター (CRET) 長崎大学・CRET 筑波大学・CRET
P2306	制御適合はパフォーマンスを高めるのか? —制御適合の種類とパフォーマンスのタイプ別の検討—	○外山 美樹 長峯 聖人 湯 立 三和 秀平 黒住 嶺 相川 充	筑波大学・NPO法人教育テスト研究センター (CRET) 筑波大学・CRET 筑波大学・CRET 筑波大学・CRET 筑波大学・CRET 筑波大学・CRET
P2307	犬派・猫派による性格特性の差異について —Big Five性格特性による検討—	○戸口 愛泰	大阪国際大学
P2308	日本語版対人反応性指標の性別による測定不変性の検討	○日道 俊之 小山内 秀和 後藤 崇志 藤田 弥世 河村 悠太 野村 理朗	神戸大学 浜松学院大学 京都大学 京都大学・日本学術振興会 京都大学・日本学術振興会 京都大学
P2309	サイコパシー傾向と映像視聴内容との関連	○伊藤 君男	東海学園大学
P2310	ジェンダー・パーソナリティの規定因と心理的健康への影響 —日本型家族志向性に注目して—	○土肥 伊都子	神戸松蔭女子学院大学
P2311	ポジティブ感情への共感がボランティア継続に及ぼす影響	○小池 はるか	東海大学短期大学部
P2312	若年者におけるネガティブ反すう特性と入眠困難との関連	○八田 武俊 八田 純子	岐阜医療科学大学 愛知学院大学
P2313	恨みと不幸の対応がシャーマンフロイデに与える影響	○佐藤 栄晃 北村 英哉	関西大学 関西大学
P2314	2種類の妬み感情と行動意図の関係の検討	○中井 彩香 沼崎 誠	首都大学東京 首都大学東京

ポスター発表P23 第2日

P2315	罪へのライセンス 罪悪感と補償行動に対するモラルライセンシング効果の 検討	○古川 善也 中島 健一郎 森永 康子	広島大学 広島大学 広島大学
P2316	「感謝のしるしに5円差上げます」 —感謝の文面と些細化効果が向社会的行動意図に及 ぼす影響—	○山本 晶友 樋口 匡貴	上智大学 上智大学
P2317	制御焦点操作によるPay it forward促進の試み —感謝と負債感に着目した検討—	○白木 優馬 五十嵐 祐	名古屋大学・日本学術振興会 名古屋大学
P2318	幸福感に関する尺度の作成(5) —日本版 Hedonic and Eudaimonic Motives for Activi- ties 尺度に関する縦断的検討—	○浅野 良輔 塚本 早織 五十嵐 祐	久留米大学 京都大学・日本学術振興会 名古屋大学
P2319	裁判員裁判に対する認知が参加意欲へ及ぼす影響	○齋藤 真由 白岩 祐子 唐沢 かおり	東京大学 東京大学 東京大学
P2320	人間の「性質」に関する本質主義的信念	○浅井 暢子	京都文教大学
P2321	自分が所属する集団に対して否定的評価をした人物に 対するステレオタイプ適用	○平野 万由子 大石 素子 工藤 恵理子	東京女子大学 東京女子大学 東京女子大学
P2322	福島県産食品の風評被害に抑制が及ぼす影響	○田戸岡 好香 樋口 収 唐沢 かおり	東京大学・日本学術振興会 北海道教育大学 東京大学
P2323	言霊に関する態度と行為 —不確実事象に関する予測の観点から—	○村上 幸史	神戸山手大学
P2324	“ネタばれ”は物語のおもしろさを上げるのか? Leavitt & Christenfeld (2011) の追試的検討	○樋口 匡貴 楠元 久貴	上智大学 (株)リーディングマーク
P2325	自己記述を促す動詞が自尊心に及ぼす影響 「考える・感じる・思う」の比較	○武田 美亜	青山学院女子短期大学
P2326	熟慮-実行マインドセットが方略選択に及ぼす影響	○松崎 圭佑 沼崎 誠	首都大学東京 首都大学東京
P2327	他者の行動に対する道徳的判断に社会的距離感が及 ぼす影響	○朴 ゴウン 村田 光二	一橋大学 一橋大学
P2328	短期配偶相手の選択における選好 短期配偶におけるコストという観点から	○新井田 恵美 堀毛 一也	東洋大学 東洋大学
P2329	家庭・育児と仕事における目標の認知に関する検討	○高林 久美子	一橋大学
P2330	援助行動についての第三者による批判的評価の規定因 状況要因に注目して	○山本 佳祐 田中 宏明	大阪市立大学 大阪市立大学
P2331	解釈レベルがステレオタイプ反証刺激の潜在的評価に 及ぼす影響 ジェンダーステレオタイプ反証事例を用いた検討	○藤島 喜嗣	昭和女子大学

ポスター発表P23 第2日

P2332	サービス・エンカウンターにおける笑顔の印象形成について —口の開閉による印象差, 日本人・北米人・インドネシア人の比較—	○北村 伊都子	梅花女子大学
P2333	愛着の内的作業モデルが他者の情動の理解における主観的・客観的側面に及ぼす影響 —他者意識を媒介変数として—	○松尾 和弥 島 義弘 武儀山 珠実 福井 義一	甲南大学 鹿児島大学 (福)名広愛児園 甲南大学
P2334	国産志向の購買行動に現れる異民族偏見に関する検討	○山本 雄大	八戸学院大学
P2335	メタステレオタイプが外集団への感情と内集団ステレオタイプに及ぼす影響	○田村 美恵	神戸市外国語大学
P2336	Webサーベイ実験における努力の最小限化と民族ステレオタイプ Satisficing and Stereotyping Dance Together	○三浦 麻子 小林 哲郎	関西学院大学 香港城市大学
P2337	他者との関係性構築における閾下単純接触効果についての検討: 対象との類似性に着目して	○三木 あかね 川上 直秋 中島 健一郎	広島大学 島根大学 広島大学
P2338	大学生における第二外国語の学習態度と外国人に対する印象の関連性	○菅 さやか 中村 綾	愛知学院大学 愛知学院大学
P2339	異なるスポーツ観戦状況における誤認知の差異の検討	○安部 健太	学習院大学
P2340	不安全行動の危険性評価の規定因に関する研究	○村越 暁子 宮地 由芽子	(公財) 鉄道総合技術研究所 (公財) 鉄道総合技術研究所
P2341	大学での学業遂行と適応を支える心理的特性 (5) 心理的耐久性 (Durability) と達成動機, 向上心との関連	○川上 正浩 小城 英子 畑中 美穂	大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学 名城大学
P2342	大学での学業遂行と適応を支える心理的特性 (6) 心理的耐久性 (Durability) とレジリエンスとの関連	○畑中 美穂 川上 正浩 小城 英子	名城大学 大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学
P2343	道徳的規範の違いが社会人における非常識行動への意識に与える影響	○小幡 直弘	北星学園大学
P2344	マインド・コントロール脆弱性測定の試み (3) —マインド・コントロール脆弱性尺度の開発—	○渡邊 和弥 木村 真利子 西田 公昭	立正大学 立正大学 立正大学
P2345	避難情報の提示における自己スキーマの影響 子どもを持つ母親を対象として	○元吉 忠寛	関西大学
P2346	増減する文脈情報と相対的価値判断	○野田 理世	金城学院大学
P2347	社会的ネットワークの成員性と排斥経験が拒絶懸念と拒絶傾向に及ぼす影響 —自己選択属性に基づく集団を用いた検討—	○小森 めぐみ 磯部 智加衣	四天王寺大学 千葉大学
P2348	社会的迷惑行為について討議することによる迷惑認知の変化	○友野 聡子	宮城学院女子大学

ポスター発表P23 第2日

P2349	初対面挨拶における発話速度と声の高さが聞き手の感情に及ぼす影響	○橋本 和奈実	法政大学
P2350	近隣に他者が存在する状況における視線一致知覚	○松田 昌史	NTTコミュニケーション科学基礎研究所
P2351	世代間コミュニケーションの実態 積み木を用いた創造性課題実験から	○田淵 恵 三浦 麻子	関西学院大学・日本学術振興会 関西学院大学
P2352	無拘束環境下での会話計測データの長期傾向分析の可能性 自動推定された音声的非言語特徴量に基づいて	○横山 ひとみ 藤田 欣也	東京農工大学 東京農工大学
P2353	攻撃性と対人スキルの関連 攻撃性と対人スキルの構成因子に注目して	○嘉瀬 貴祥 大石 和男	立教大学・日本学術振興会 立教大学
P2354	ポジティブ・ネガティブフィードバックがデート相手の異性選択に及ぼす影響	○加藤 樹里 村田 光二	一橋大学 一橋大学
P2355	心理的耐性に影響を及ぼす諸要因の検討 一性差・家族構成を中心として一	○青野 明子 林 幸史 戸口 愛泰 森上 幸夫 小牧 一裕	大阪国際大学 大阪国際大学 大阪国際大学 大阪国際大学 大阪国際大学
P2356	社会的スキルトレーニングの成果を高める要因の検討 (1) 一トレーニングの成果を高める要因の抽出一	○松本 明日香 太幡 直也 小川 一美	愛知淑徳大学 愛知学院大学 愛知淑徳大学
P2357	NVCスキルトレーニングが他者からの印象評定に与える効果 一異性との初対面場面での検討一	○土屋 裕希乃	青山学院大学
P2358	職場におけるコミュニケーション・スキルと評価 上司に対するコミュニケーション・スキルと仕事での評価	○牧野 幸志	摂南大学
P2359	賞賛獲得欲求・拒否回避欲求がLINEの利用における対人関係形成意思に及ぼす影響	○小島 弥生	埼玉学園大学
P2360	友人関係における信頼と被信頼がストレス反応や関係性評価に及ぼす影響	○藤原 勇	京都橘大学
P2361	SCATによる大学生を対象とした他者を操作しようとする動機の構造の把握 (2) 一目上の操作対象者への操作動機に焦点化して一	○木川 智美	元 聖徳大学
P2362	大学生の友人関係に影響を与える要因に関する一考察 一平成元年から平成26年までの友人関係研究を対象とした文献研究 (1) 一	○皆元 司 紀 日奈子	九州産業大学 九州産業大学
P2363	インターネットコミュニケーションの普及と青少年の友人関係研究の変遷 一平成元年から平成26年までの友人関係研究を対象とした文献研究 (2) 一	○紀 日奈子 皆元 司	九州産業大学 九州産業大学
P2364	親密なパートナーへの暴力 (IPV) 尺度の作成と妥当性の検証 (1) デモグラフィックデータとリスク行動 (飲酒・喫煙) に焦点を当てた分析	○喜入 暁 越智 啓太	法政大学 法政大学

ポスター発表P23 第2日

- | | | | |
|-------|--|-------------------------------------|--------------------------------|
| P2365 | 親密な関係における暴力の責任帰属にかかわる要因の検討 | ○森永 康子
坂田 桐子
平川 真 | 広島大学
広島大学
広島大学 |
| P2366 | 異性間の関係構築におけるコミュニケーションメディアの順序効果の検討
—Twitter画面の先行呈示は効果的か— | ○上野 裕介
坂田 桐子 | 広島大学
広島大学 |
| P2367 | 夫婦関係へのコミットメントの日米比較
—特異項目機能による接近・回避コミットメント尺度の比較— | ○古村 健太郎
小田切 紀子
宇井 美代子
松井 豊 | 新潟大学
東京国際大学
玉川大学
筑波大学 |
| P2368 | 「おそろいでかわいい♥」の背景
—双子コーデからみる現代青年の友人関係— | ○市村 美帆
新井 洋輔 | 目白大学
東京福祉大学 |
| P2369 | 関係相手の応答性の変化が共同規範と交換規範の遵守傾向に及ぼす影響
—縦断調査による検討— | ○宮崎 弦太 | 東京女子大学 |

P24 ポスター発表

第2日 (9月18日) 14:45 ~ 16:15 H号館ラーニングコモンズ1

在席責任時間 枝番の奇数番号 : 14:45 ~ 15:30 偶数番号 : 15:30 ~ 16:15

P2401	年長者からの被支援経験は高齢期の子育て支援行動を促すか Generativityと若者への否定的態度を媒介要因とした検討	○小林 江里香 原田 謙 深谷 太郎 村山 陽 高橋 知也 藤原 佳典	(地独) 東京都健康長寿医療センター 実践女子大学 (地独) 東京都健康長寿医療センター (地独) 東京都健康長寿医療センター (地独) 東京都健康長寿医療センター (地独) 東京都健康長寿医療センター
P2402	スポーツファンのアイデンティティと所属意識の関係について	○山口 耕平 藤野 京子	(株)須永総合研究所 早稲田大学
P2403	ステイクサイズの個人内効果の検討	○松本 良恵 李 楊 山岸 俊男	玉川大学 玉川大学 玉川大学・一橋大学
P2404	2つの集団で構成される社会で一般交換を維持させる利他行動の特徴 -2-	○小野田 竜一 高橋 伸幸	北海道大学 北海道大学
P2405	小さく協力・大きく裏切る戦略のシミュレーションによる検討	○植村 友里 松本 良恵 神 信人	淑徳大学 玉川大学 淑徳大学
P2406	学歴社会可変性認知とシステム変革動機 学歴水準による差異	○池上 知子 矢田 尚也	大阪市立大学 大阪市立大学
P2407	リーダーの道徳判断に影響を及ぼす個人要因の検討 —道徳基盤と自己制御を中心に—	○坂田 桐子	広島大学
P2408	組織特性が大学生の知覚する組織の魅力に及ぼす影響 大学生の性格の調整効果	○高木 浩人 石田 正浩	愛知学院大学 京都府立大学
P2409	非正規雇用者のメンタルヘルスと職業特徴	○有吉 美恵 錦谷 まりこ	九州大学 九州大学
P2410	学生アルバイトのワーク・モチベーションに影響を与える要因	○小久保 みどり	立命館大学
P2411	女子大学生の進路決定と対人環境の関係 (3) —個人の接近回避志向及び阻害的対人環境が進路決定に及ぼす効果—	○山下 倫実 風間 文明	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学
P2412	「しごと力」の適切な因子数の検討	○高原 龍二 田中 健吾	大阪経済大学 大阪経済大学
P2413	自尊心と安心さがシツイトと他者からの受容認知が感情反応に及ぼす影響 —安心さがシツイトで低自尊心者は満たされるか?—	○長谷川 孝治 古里 由香里	信州大学 東北大学
P2414	SNSにおける自己開示の適切さに関する検討	○松木 祐馬	早稲田大学
P2415	社会的スキルの違いがネット上のトラブル対処に及ぼす影響	○石川 真 平田 乃美	上越教育大学 白鷗大学
P2416	インターネットの「炎上」参加者に関する探索的研究	○吉野 ヒロ子	帝京大学・中央大学

ポスター発表P24 第2日

P2417	SNS利用における否定的体験が抑うつにもたらす影響 利用者個人変数との交互作用効果	○西村 洋一	北陸学院大学
P2418	SNS上での間接接触が外国人イメージに及ぼす影響 (2) —3波縦断調査による検討—	○松尾 由美 田島 祥 寺本 水羽 祥雲 暁代 相田 麻里 渋谷 恵 坂元 章	関東短期大学 東海大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学
P2419	原発問題をめぐるTwitter上のコミュニケーションと感情	○鈴木 万希枝 桑原 武夫	東京工科大学 慶應義塾大学
P2420	放送法の知識とテレビ報道の公平性に関する意識の性別・年代差	○山下 玲子	武蔵大学
P2421	テレビニュースはCOP21をどのように伝えたか —マスメディアにおける環境問題報道の内容分析 (1)—	○川端 美樹	目白大学
P2422	「テレビ批判」の実証的研究 BPOに寄せられた視聴者意見と中年層の意見の比較	○齋藤 誠子	慶應義塾大学
P2423	有権者の「デモ」イメージ：自由回答の計量テキスト分析	○千葉 柚子 横山 智哉 稲葉 哲郎	一橋大学 一橋大学 一橋大学
P2424	欧米のスポーツ環境から見た日本の部活動 <i>bukatsu</i> の文化心理学 (2)	○尾見 康博	山梨大学
P2425	図書館場面におけるカザフスタン人の状況的規範と「ふつう」認知 独自性欲求の観点から	○佐野 予理子 黒石 憲洋	関東学院大学 日本教育大学院大学
P2426	パネルデータを用いた文化交流期待と民族イメージの因果関係の推定	○潮村 公弘 申 知元	フェリス女学院大学 青山学院大学
P2427	異文化間能力には包括的認知が必要か？ 文化的知性尺度 (Cultural Intelligence Scale) を用いた検討	○中尾 元 内田 由紀子	京都大学 京都大学
P2428	インターグループ・イデオロギー尺度日本語版の作成	○福川 康之 小野口 航 中山 真里子	早稲田大学 早稲田大学 立教大学
P2429	対人関係欲求尺度 (INQ) と自殺潜在能力尺度 (ACSS) の日本語版の作成	○相羽 美幸 太刀川 弘和 Adam Lebowitz	東洋学園大学 筑波大学 自治医科大学
P2430	大学生のアルバイト就労と精神的健康との関連	○高本 真寛	横浜国立大学
P2431	自由選択の感覚が Well-being の日米差に及ぼす影響：World Values Survey データによる検討	○中里 直樹 森永 康子 中島 健一郎	広島大学・日本学術振興会 広島大学 広島大学
P2432	問題への対処スタイルが大学生の学生生活における動機づけに与える影響	○浅井 千秋 米山 実来	東海大学 平塚児童相談所
P2433	近隣の walkability 環境と高齢者の歩行行動と健康	○片桐 恵子	神戸大学

ポスター発表P24 第2日

P2434	マイクロ公正感と義憤が社会的逸脱行為者に対する感情に及ぼす影響	○板山 昂	関西国際大学
P2435	情報秘匿時の脳血流動態反応と嘘をつくことに対する認識との関連 —近赤外分光法（NIRS）を用いた検討—	○新岡 陽光 越智 啓太	法政大学 法政大学
P2436	量刑判断に影響する因子に関する重回帰モデル（1） —生育歴と反省の程度および罪名判断が及ぼす影響—	○北折 充隆	金城学院大学
P2437	援助交際への抵抗感を低減させる心理的要因の検討	○大高 実奈 越智 啓太	法政大学 法政大学
P2438	特性共感と援助規範意識がボランティア活動意欲に及ぼす影響	○山本 陽一	筑波大学
P2439	発表日程変更		
P2440	被虐待経験は男女で共感性に異なる影響を及ぼすのか？（2） —愛着の内的作業モデルの媒介効果—	○大浦 真一 松尾 和弥 福井 義一	甲南大学 甲南大学 甲南大学
P2441	二分法的思考の年齢変化 —18歳から69歳までを対象として—	○小塩 真司 三枝 高大	早稲田大学 早稲田大学
P2442	規範「遵守」「逸脱」的な態度を持つ生徒の人数と学級風土の関連 学級集団の構成に着目して	○出口 拓彦	奈良教育大学
P2443	仮想的有能感の視点を踏まえた大学生の競争観 競争事態における先延ばしの意味を捉え直す	○森 裕樹 板垣 達心 蕪木 太加彦	新潟医療福祉カレッジ 新潟医療福祉カレッジ 新潟医療福祉カレッジ
P2444	障害者に関するエビデンスの構築（1） 障害者の社会適応度と関係流動性認知	○佐藤 剛介	名古屋大学

主領域索引

主領域	発表番号
I 一般	
11-0 研究法・統計	O203-2・P2101・P2102・ P2103・P2301・P2302・P2303・ P2304
21-0 自己・パーソナリティ	O101-2・P1101・P1102・ P1103・P2104・P2105・P2106・ P2107・P2108・P2305・P2306・ P2307・P2308
II 個人内過程	
21-1 自己概念・社会的自己	P2109・P2110
21-3 パーソナリティと社会的行動	O101-1・O101-3・P1104・ P1105・P1106・P2111・P2112・ P2113・P2114・P2115・P2309・ P2310・P2311・P2312
22-0 感情・動機	O209-1・O209-2・O209-3・ O209-4・O209-5・O209-6・ P1107・P1108・P1109・P2116・ P2117・P2118・P2119・P2120・ P2121・P2313・P2314・P2315・ P2316・P2317・P2318
23-0 認知	P1110・P2122・P2319
23-1 社会的認知	O202-1・O202-2・O202-3・ O202-4・O202-5・P1111・ P1112・P1113・P1114・P2123・ P2124・P2125・P2126・P2127・ P2128・P2129・P2130・P2131・ P2132・P2320・P2321・P2322・ P2323・P2324・P2325・P2326・ P2327・P2328・P2329
23-2 対人認知・印象形成	O204-1・P2133・P2134・ P2135・P2330・P2331・P2332・ P2333
23-3 社会的比較	P1115・P2136
23-4 偏見・ステレオタイプ	O205-1・P2137・P2138・ P2334・P2335・P2336・P2337・ P2338
23-5 帰属・帰属のバイアス	O207-2・P1116・P2139・P2339
23-6 リスク認知	O106-2・O106-3・O106-4・ O106-5・P1117・P2140・P2340
24-0 態度・信念	O204-4・O204-5・P1118・ P1119・P2141・P2142・P2341・ P2342・P2343
24-1 態度構造・態度変容・説得・信念	O204-3・O204-6・P1120・ P1121・P2143・P2144・P2344・ P2345
24-2 価値意識	O204-2・O205-2・O205-3・ O205-4・P2346
III 社会的相互作用・対人関係	
31-0 対人的相互作用	O202-6・O211-1・O211-2・ O211-3・P1122・P2145・ P2146・P2347・P2348
31-1 対人的コミュニケーション	O104-2・O211-4・O211-5・ O211-6・P1123・P1124・ P2147・P2148・P2149・P2150・ P2349・P2350・P2351・P2352
31-2 協同・競争	O210-1・O210-2
31-3 援助	P1125・P1126
31-4 攻撃	O106-6・P2353
31-5 対人魅力	O103-2・P2151・P2354
31-6 社会的スキル	O103-1・P2152・P2355・ P2356・P2357・P2358
32-0 身近な人間関係 (家族・友人等、恋愛、対人関係の発展・崩壊)	O104-1・O104-3・O104-4・ P1127・P1128・P1129・P1130・ P2153・P2154・P2155・P2156・ P2157・P2158・P2159・P2160・ P2161・P2201・P2359・P2360・ P2361・P2362・P2363・P2364・ P2365・P2366・P2367・P2368・ P2369
33-0 ソーシャルサポート	O103-3・P1131・P1132・ P1133・P2401
34-0 対人葛藤・対人ストレス	O101-4・O107-2・P1134・ P1135・P2162・P2163
35-0 被服行動・化粧行動	O107-3・P1136・P2164・ P2165・P2166・P2167
IV 集団・組織・産業	
41-0 集団	O102-2・O206-1・O206-2・ O206-3・O206-4・O206-5・ O206-6・P1137
41-1 社会的アイデンティティ	O207-1・P2402
41-2 社会的交換	O207-3・O207-4・O207-5・ O207-6・P2403・P2404・P2405
41-3 社会的ジレンマ	O203-3・O203-4・O203-5
41-4 集団内過程 (同調と逸脱、リーダーシップ等)	P1138・P1139・P1140・P1141・ P2168・P2169・P2202・P2203
41-5 集団の意思決定	O105-2・O210-3・O210-4・ O210-5・O210-6・P1142・ P1143・P2204・P2205
43-0 集団間関係	O203-1・O203-6・P1144・ P2206・P2406
44-0 組織	O102-1・O102-3・O102-4・ P2207・P2208・P2407・P2408
45-0 産業	P2209・P2210・P2409
46-0 人的資源管理	P2410
47-0 キャリア発達・開発	P2411・P2412

V 集合現象

51-0 集合行動	P2211・P2212
51-2 普及・流行	O201-1
52-0 コミュニケーション	P2213・P2214
52-1 電子ネットワークキング	O201-2・O201-3・P1145・ P2216・P2217・P2218・P2219・ P2222・P2413・P2414・P2415・ P2416・P2417・P2418
52-2 マスコミュニケーション	O201-4・P2215・P2220・ P2221・P2223・P2419・P2420・ P2421・P2422
53-0 消費・生活意識	O201-5
53-1 消費	O201-6・P1146・P1147・ P1148・P2224・P2225・P2226
53-2 ライフスタイル	P2227
53-3 広告	P1149・P1150
54-0 政治行動	P1151
54-1 政治参加・投票	O105-3
54-2 世論過程	O105-1・O105-4
54-3 政治意識	O105-5・O105-6・P2423

VI 文化・社会問題

61-0 社会化	O205-5・O205-6
62-0 文化	O107-1・O107-4・O107-5・ P1152・P1153・P2228・P2229・ P2230・P2424・P2425・P2426
62-1 比較文化	O102-5・O104-5・O107-6・ P1154・P1155
62-2 異文化適応	P2231・P2232・P2427・P2428
62-3 宗教	P2233
63-0 社会問題・社会病理	O106-1・P1156・P2234・ P2235・P2429・P2430
63-1 QOL(QualityofLife), ライフストレス	O103-4・O103-5・P1157・ P2236・P2237・P2431・P2432
63-2 性役割・ジェンダー	P2238・P2239・P2240
63-4 高齢者・高齢化社会	P2241・P2242・P2433
63-5 犯罪・非行	O104-6・P2434・P2435・ P2436・P2437
63-6 いじめ・学校内の問題	P1158・P1159
64-1 環境問題	O208-2・O208-3・O208-4・ P1160・P1161・P1162
64-2 安全・防災	O208-5・P1163・P1164・ P1165・P1166
65-0 コミュニティ	O208-6・P1167・P1168・ P1169・P2243・P2244・P2245
66-0 ボランティア	O208-1・P2438

VII その他

71-0 臨床心理	O101-5・P1170・P2440
72-0 発達心理	P2441
73-0 教育心理	P2442・P2443
74-0 その他	P2444

日本社会心理学会第 57 回大会 賛助団体 御芳名

【広告・展示】

株式会社 日経リサーチ
株式会社 日本能率協会総合研究所
株式会社 北大路書房
株式会社 誠信書房
株式会社 サン・エデュケーショナル
株式会社 朝倉書店
有限会社 ブックマン
株式会社 ナカニシヤ出版
株式会社 創元社
SAGE Publications 日本支社
株式会社 北樹出版
株式会社 風間書房
株式会社 ちとせプレス
株式会社 テキスト
保育出版社
株式会社 有斐閣
楽天リサーチ株式会社

【協賛】

関西学院大学出版会

(敬称略)

大会を開催するにあたり、上記各企業・団体より多大なご支援をいただきました。
ここにその御芳名を記して、心から感謝の意を表します。

2016年8月
日本社会心理学会第57回大会準備委員会

